

---

令和8年 壱 岐 市 議 会 定 例 会 3 月 会 議 会 議 録 (第4日)

---

議事日程 (第4号)

令和8年3月10日 午前10時00分開議

日程第1 一般質問

- 7番 山内 豊 議員  
10番 清水 修 議員  
1番 菊池 弘太 議員  
6番 山口 欽秀 議員

---

本日の会議に付した事件  
(議事日程第4号に同じ)

---

出席議員 (16名)

- |            |            |
|------------|------------|
| 1番 菊池 弘太君  | 2番 酒井 真吾君  |
| 3番 松本 順子君  | 4番 樋口伊久磨君  |
| 5番 武原由里子君  | 6番 山口 欽秀君  |
| 7番 山内 豊君   | 8番 山川 忠久君  |
| 9番 植村 圭司君  | 10番 清水 修君  |
| 11番 赤木 貴尚君 | 12番 音嶋 正吾君 |
| 13番 小金丸益明君 | 14番 中田 恭一君 |
| 15番 中原 正博君 | 16番 土谷 勇二君 |

---

欠席議員 (なし)

---

欠 員 (なし)

---

事務局出席職員職氏名

議会事務局局長 草合 正吉君 議会事務局次長 松永 淳志君  
議会事務局書記 川村 亮君

---

説明のため出席した者の職氏名

市長	篠原 一生君	副市長	中上 良二君
教育長	山口 千樹君	総務部部长	平田 英貴君
地域振興部部长	塚本 和広君	市民部部长	吉田 博之君
保健環境部部长	村田 靖君	産業推進部部长	松嶋 要次君
建設部部长	平本 善広君	消防本部消防長	山川 康君
教育次長	目良 顕隆君	総務部次長	小川 和伸君
地域振興部次長	岡部 一也君	総務課課長	渡野 浩司君
財政課課長	原 裕治君	会計管理者	篠崎 昭子君

午前10時00分開議

○議長（土谷 勇二君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は16名であり、定足数に達しております。

これより本日の会議を開きます。

日程第1. 一般質問

○議長（土谷 勇二君） 日程第1、一般質問を行います。

7番、山内豊議員の登壇をお願いします。

〔山内 豊議員 一般質問席 登壇〕

○議員（7番 山内 豊君） おはようございます。7番、山内豊です。通告に従いまして、3月会議の一般質問をさせていただきます。まだまだちょっと寒い日が続いておりますので、どうぞ御自愛いただきながら、市民の皆様も体に気をつけて年度末、そして新しい年度を迎えていただきたいと思っております。消防長におかれましても、昨日ちょっとお姿が見えなかったので心配しておりましたが、本日は消防長に対しての質問となっておりますので、どうぞよろしく申し上げます。また、今回も大きく2点。1つ目は、私も属しております老岐市消防団についてということで質問をさせていただきます。

昨今、少子高齢化だったり、人口減少が進む社会でやっぱりどうしても避けて通れない話題だなと思っています。その中でも、やっぱりまちづくりに関してもそうですし、いろいろなコミュニティについてもそうです。やっぱりマンパワーがないとどうしても成り立っていかないというのが現状であります。そして、また、消防団においては地域防災を担う要として成業の傍ら頑張っていただいておりますことに対して敬意を表しますとともに、なお一層の組織力の団結をもって、日本一の老岐市消防団としてまた頑張してほしいと思っております。その中でもやっぱり、どう

しても消防といえば火事現場に行ったりとか捜索をしたりとか、またまた壱岐市のイベントにおいては立哨とか、ちょっと方向性の違うことに対しても貢献をしておりますし、大事な組織であることは間違いございません。しかしながら、やはりどうしても人がいないと。どんどん辞めていくと。入っていてもなかなか顔を出さないと。本当に現実即した問題が昨今浮き彫りにされております。

その中で、今、安川団長の下、新しい消防団として生まれ変わりつつあります。イメージの払拭にもしかりですけれども、消防団の組織内の充実、そして、そこにおられる酒井議員に聞いたほうが早いと思うんですけれども、やっぱり消防団は崇高な使命を持った方々がしっかりと携わっておられると。そういうところで、イメージの払拭、そして、ちゃんとした義務を果たすべきというところで頑張っておられます。もちろん批判することなど一切ございませんので、その辺は御承知おきいただきたいと思います。

それでは質問に入ります。今回、3月、年度内で第7期が終わりまして、4月から第8期ということになりますが、まず1点目、今期間中の新入団員の数と退職団員の総数を教えていただきたいと思います。そしてまた、速報値で構いませんので、来期4月から第8期間中の新入団員の数を教えていただきたいと思います。

2点目です。退職された団員の方が特別に機能別団員として携わっていただく制度があります。その機能別団員の皆様方の主な役割ということをお願いいたします。

そして、3点目最後です。現在、壱岐市消防団として4地区とあります。その地区の再編もうわさのレベルですけど進んでいるのかなというふうに考えております。地区の中の分団によっては、1から3まであった部とか小隊が再編をされて2部体制、または1つの分団として存続をすると。その中でも、やっぱりどうしてもマンパワーが必要な組織ですから、人口減少に当たってはこれから先一本化をしていくのかどうかということも含めて御質問させていただきます。御答弁のほうよろしく申し上げます。

○議長（土谷 勇二君） 山内豊議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。山川消防長。

〔消防本部消防長（山川 康君） 登壇〕

○消防本部消防長（山川 康君） 7番、山内議員の壱岐市消防団について、少子高齢化、人口減少を急速に進む社会において地域防災を担う消防団も転換期にあるといえる。第8期を迎えるに当たっての御質問にお答えをいたします。

1番目の、第7期期間中の新入団員と退職団員の総数は。また第8期の新入団員数についての御質問にお答えをいたします。

まず、壱岐市消防団は3年1期のサイクルで、階級移動等の編成替えを行っております。第7期の期間は令和5年度から令和7年度の3年間を示しており、第7期期間中の新入団員数は

32名で、退職団員数は102名となっております。また、第8期のスタート時は750名で、新入団員数は18名を予定しております。現在、編成替えの事務処理を進めておりますので、確定値は変動がある場合もございます。

次に、2番目の機能別団員の主な役割はについてお答えいたします。

機能別団員は、火災・水害・その他の災害において、消防団の初動体制及び後方支援体制を図るため、平成30年8月1日に発足されました。機能別団員とは、消防団員として培った豊富な知識・技能等を活かし災害等の現場で不足する消防力を保管する役割を担うため、服務に従事する団員のことを示します。主な役割としては、災害時において分団長の出動要請に応じ、原則として分団長の指揮の下、災害防御活動に当たる任務を担っております。

3番目に、地区ごとに再編の計画も進んでいるが、最終的に壱岐市で一本化する予定はあるのかの質問にお答えします。現在、団員数も減少し、将来的には一定の団員数を確保できない分団につきましては、近隣分団との連携強化や統合も選択肢の1つとして検討せざるを得ない状況にあります。その際には、分団格納庫の配置、出動所要時間、消防水利の状況などを精査し、防災機能を低下しない体制を前提に判断してまいります。統内の一本化についてですが、現時点では、消防団幹部の話では一本化する考えはございません。

災害時には、各地区に精通した団員の迅速な初動体制が必要とあると考えております。したがって、当面は現在の地区ごとの分団体制を維持しつつ、地域防災力の向上に努めてまいりたいと考えております。

しかしながら、一本化することによる組織の運営の効率化や指揮・命令系統の明確化といった効果が得られると判断した際は、消防団本部と十分協議の上、防災力を向上する体制となるよう検討してまいります。

以上です。

[消防本部消防長（山川 康君） 降壇]

○議長（土谷 勇二君） 山内議員。

○議員（7番 山内 豊君） 山内です。御答弁ありがとうございました。

退職団員が102名で、新入団員が32名で、今期が18名ということですね。やはり、どうしても消防団の減少というか、避けて通れないというところに来ているのかなと思います。団員の定数が今940名というふうに規則で載っておりますが、そのうち750名からのスタートということになっています。どうでしょうか。消防団員を皆さん、各分団の方々安川団長を先頭に募集をしているんですけども、以前はものすごくイメージが悪かったなというふうなことがありました。身内からのイメージがすごく悪くて、我々も一緒に勧誘に行くと、その奥様であったりお母様であったりが「消防団はいつも飲んでばかり」みたいな感じ、そういうイメージが

あります。しかしながら、それはもう本当昔のことで、今はそういうことは全くないことはないんですけれども、もうぼぼぼなくなつたというようなことでございます。なぜ、消防団が増えないのかというところにやっぱり問題点を起こす必要があるのかなと思います。特別これがいい、あれがいいとかという答えを持ち合わせているわけではないんですけれども、やはり、まずは消防団が何をやっているのかというところから始めたいと思っています。実際、火事とか捜索とかというところに行くというのは見る方はあまり少なく、どっちかと言うと壱岐市が主催するイベントのほうの立哨で活動服を着たりとか、団服を着たりして立哨をしているイメージが強いのかなと思っています。やっぱりその辺でどうしても時間が取られてしまうということが、今の集まらない現状にあるような感じもあります、実際ですね。去年が特にウルトラマラソンとかがずっと重なったときに、全て消防団から、はい、消防団から、はい、次も消防団からというふうな、そういう現団員からの意見も出ています。やっぱり本当のことを言って、しっかり理解をして入っていただくというのが大前提ですので、そうしないと絶対に消防団という、何の組織もそうすけど続いていけないというのが根底にありますので、その辺をやっぱりしっかりと見極めて消防団の勧誘も行っていきたいと思っています。

そして、また、ちょっと再質問させていただきます。消防団の数は、数というか任命する方の条件というか、志操堅固でかつ身体強権なものみたいな、そういうふうにしっかり書いてあるんですけれども、実際、今は消防団として、組織として動くときに、纏、ラップで音楽隊と、そういう専門部分もちろんございますし、全てが組織としては音楽隊もその組織の一員なんですよ。けれど、どうしても消防というイメージは火事現場に行く、捜索をする、そういうのがまず第一だというふうに考えて、これから勧誘をしていくんですけれども、それで、すみません。消防団員の今現在の平均年齢とかっていうのは、おおよそでお分かりでしょうか。

○議長（土谷 勇二君） 山川消防長。

○消防本部消防長（山川 康君） 山内議員の再質問にお答えをいたします。

現在、7年の10月1日現在ですけど、壱岐市消防団の平均年齢は42.6歳でございます。地区別に申しますと、郷ノ浦地区が43.3歳、勝本地区が44.5歳、芦辺地区が41.9歳、石田地区は41.8歳となっております。

以上です。

○議長（土谷 勇二君） 山内議員。

○議員（7番 山内 豊君） ありがとうございます。なぜこれを聞いたかという、やはりなかなかその世代から下というのが入ってこないというので、どの年代層をしっかりと入れると消防団として機能していくかというのが、多分この数字に現れていると思うんですよ。40歳代というのは、要するに合併する前、また合併した直後ぐらいに入られた方がいまだに続けてあられる

と。しかしながら、消防団は定年性がないので、いつ辞めてもいいですよとなっているんですよ。そこで、当時は辞めるんだったら2人入れてくれ、辞めてくれよとか、そういう暗黙の了解的なものがありました。現在はそれもうなくなって、先輩方からどんどん辞めていかれるので、かつ下が入ってこない。今回の新入団員の18名とかというのと同じで、その辺の危機意識というかも含めて消防団を活動していくというふうに僕はもうやっていかなければ、なかなか存続をしていかないなと思っております。そこで定年性を設けるとかというのではなくて、しっかりと消防団というイメージを市民の方にも分かっていたら、そのようにやっていかないと、なかなか新しい消防団員の方も入ってこれないし、続けるという方もなかなか続けられない状況にあるのかなと思っておりますので、その辺をしっかりと共有をしていきたいとこれからも思っています。

そして、地区ごとの再編の話なんですけど、ちょっと私これ安心しました。将来的には一本化もあっていいのかなと思っておりますけども、そういう場合は多分、もう本当のすごい遠い将来で、壱岐の中でも集落が1つになって、その中で消防団として機能するというふうに考えています。もう完全に水利の問題とか火事の現場の所在地とか、そういうので必ず問題が出てくると思っておりますので、地区の枠は飛び越えないような形で進めていきたいなと思っております。一本化のことももちろん考えてはおられるんでしょうけども、まずは地区でしっかりと機能して、その中で新しい仲間を増やしながらやっていきたいと思っておりますので、その辺もどうぞよろしくお願いいたします。

あと、女性消防団員の方もおられると思いますが、現在、女性の消防団員の方は何名ぐらいおられますでしょうか。

○議長（土谷 勇二君） 山川消防長。

○消防本部消防長（山川 康君） 山内議員の御質問にお答えをいたします。

現在、女性消防団員は音楽隊と、ここにおられます武原議員も含めて16人でございます。

以上です。

○議長（土谷 勇二君） 山内議員。

○議員（7番 山内 豊君） 16名ということです。音楽隊の方も結構おられるので、実際その実動の方は少ないのかなと思っております。その辺も女性の方にも理解をいただいて、火事現場に行くとか火を消すとか、トビを持って前に進んでいくとかだけではなくて、交通整理とかそういう別な要件も出てきますので、ぜひ女性も入りやすい消防団として機能していただけるように、我々も周知徹底をしていきたいと思っております。

最後に、これはちょっとお願いなんですけれども、出初行事が毎年1月6日でございます。その中で1月5日の日に準備が各地区で行われます。昔は放水訓練が海水から引っ張ってやられた

時代がありました。現在は水槽から水を汲んでやる。消防ポンプの長寿命化にも貢献をしているのかなと思います。その準備段階で、地区によっては水利からそのまま中継をして水槽に水を貯めるということもございますが、これがなかなか消防団の方大変なんですね。時間も要しますし、組み立てから始まりますので。今年、郷ノ浦地区なんですけれども生コンのミキサー車から水を持ってきていただきました。これ、もちろんお金がかかります。ですが、これをするによって消防団員の労力もすごい半減されますし、待ち時間というのがもう何時間もかかるわけですよ。延長する期間が長いので、ぜひ、各地区統一して、水を持ってくる方法を、水利の水溜めはミキサー車を使うときの予算化をしていただきたいと思います。ここにいらっしゃる酒井議員も自ら運転をされて水を汲んで持っていかれているというふうにお伺いしておりますので、そういう万が一のことも考えられますので、そういうことをぜひ予算化をしていただきたいと思いますので、これはお願いです。どうぞよろしくお願いたします。

消防団に関しては、これで終わりたいと思います。

それでは、2つ目の質問に行きたいと思います。

市長に質問をします。ちょうど4月で市長も任期2年になりますので、ちょっと折り返しになるかなと思います。選挙期間中、私も補欠選挙の期間中で一緒に選挙カーで回ったことをよく覚えておりますし、その当時就任されて6月会議ではいろんな議員から市長に対する公約の実効性とかというのを問われたと思います。2年経ちました。現在、市長がどういうふうにお考えかというのがありますが、なかなか前に進めていないのが現状かなと思っておる中で、理想と現実という高い壁を突きつけられたというふうなイメージを持っております。

それで、1つ目の質問ですが、首長としてのこれまでの自己評価、そして市長がやられている政策または職務は、これは市長目線か市民目線か、同じ方向を向いているのかということと。

そして、2つ目が、これから先2年間もっと先に向けて成就すべき課題、そして必ずやり遂げべき重点政策ということでお伺いしております。どうぞよろしくお願いたします。

○議長（土谷 勇二君） 篠原市長。

〔市長（篠原 一生君） 登壇〕

○市長（篠原 一生君） 山内議員の御質問にお答えをいたします。

山内議員がおっしゃるとおり、私は市長に就任しまして今年度で一期の折り返しとなる2年が経過しようとしております。この間、「一緒に前へ、壱岐新時代へ」をスローガンに掲げ、市民の皆様の負託に応えるべく全力で壱岐市を牽引してまいりました。

就任前に作成した政策パンフレットは、多くの市民の皆様と対話を重ねる中で、壱岐新時代を切り拓くために必要不可欠と考えた100の政策をまとめたものです。現在の進捗状況につきましては、実施済みが81事業、つまり進捗率は81%というふうになっております。この100の

政策は壱岐新時代を迎えるため、壱岐を変えていくための挑戦的な内容となっており、中には実現が容易でないものも多々ございます。

しかし、それら混乱な課題こそが壱岐のアップデートには不可欠と考え、就任当初より今日まで全力で取り組んでまいりました。特にいまだ実現できていない19事業は、これまでにない新たな挑戦ではありますが、来年度は9割の実現に向け、さらなる歩みを進めてまいります。市民の皆様とともに作り上げた100の政策の進捗状況を顧みますと、市民の皆様、議員の皆様、そして市職員の協力のもと、市民目線を失わず市政運営を順調に進めることができていると自己分析をしております。

この100の政策自体が市民の皆様とともに作り上げたものであるからこそ、市長としての目線と市民皆様の目線は壱岐の未来という同じ方向を向いていると確信をしております。

次に、これから先に向けて成就すべき課題、必ずやり遂げるべき重点政策はについてでございます。

4つの町が持つ特徴や歴史を活かした壱岐新時代プロジェクト、4つの港プロジェクトは、本市が将来にわたって人が住み続ける島であり続けるために、今やらなければならない島のアップデートと捉えておりますので、必ずやり遂げたい重点政策でございます。これは全く新しい壮大な挑戦であり、実現には相応の時間を要します。しかし、今が壱岐の長い歴史における重要な分岐点でありますので、今後とも市民の皆様とともに、壱岐新時代の実現に向けて挑戦を続けてまいります。

以上でございます。

〔市長（篠原 一生君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 山内議員。

○議員（7番 山内 豊君） どうでしょう。すみません。山内って言いにくいですかね。なんかない山口って。すみませんね、本当言いにくそうです。山内ですね。

市長の自己評価いただきました。81%が出来ているということです。すみません。私、そういう実感がなくて大変申し訳なかったです。100の政策もできるものから着々とやっていくというふうに答弁でおっしゃられておりました。施政方針とか、各事業に対する市長からの説明等と、各部長、次長からの説明をお伺いしております。

昨日も、武原議員から予算についての目玉ということで、市長に対して御質問がありました。給食費の無償化は今回、小学校はオーケーと。しかしながら、中学校は、できないけれどもやりますよと。この心意気、私も惚れましたね。ありがとうございます。これをやっぱりずっと1年間働きかけて、国に必ず政策としてまた持ってきていただきたい。中学校もこれからどんどん進んでいきますし、給食費なんか相当高いですからね、今。なので、これはもう本当に目に見える

政策として、後付けの目玉政策としてやっていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

そして、市長の、私、昨日も武原議員の格式高い質問をお伺いしております、しかしながら、市長も格式高い答弁をされております。私、ちょっと本当にバカなのかなと思うぐらい、ちょっと分かりにくかったんですよね、実際。いろいろなことをしたいというその前向きな気持ちは分かりますが、市長が目指しているまちの像というのがどこかの、近隣の市町とか、そういうところをモデルケースにしているとか、この市町のこの部分だとか、そういうことが市長の中でもあればちょっとお尋ねをいたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（土谷 勇二君） 篠原市長。

○市長（篠原 一生君） 山内議員の御質問にお答えさせていただきます。

私も、壱岐観光の推進のときも思ったんですけれども、壱岐の魅力が多くあると。歴史も、自然も、食も、人も多くある。その中で、なかなかこの壱岐というのがイメージがつきにくいというのは前から課題に思っております、壱岐が例えば日本のハワイとかそういったものがないのかなとずっと考えていたんですけれども、結果として見つけることができなかつた。それだけ壱岐は独自の魅力がありますし、様々な魅力があることがまた壱岐の魅力なのかなというふうに思っております。そういった中で、今、4つの港ということで、まさにそれぞれ違うまちの魅力、また歴史特徴がありますので、それを活かして壱岐独自の取組をしていくというのが、一番壱岐に合っているのかなというふうに考えているところです。とはいえ、それぞれの中の一部には参考にしているというところがございます、例えば郷ノ浦のプロジェクトで言いますと、商店街を活性化したいという、もともと地元というのもあって思いもあります。そういった中で参考にしたのは、四国の丸亀の商店街。あそこが商店街再活性でモデルになっているというような話もありまして、実は今回、エンゲージメントパートナーになっていただいている西松建設さんが取り組んでいたというのもあって、こちらからそちらはアプローチをして、今回、この郷ノ浦プロジェクトに関しても1年間、様々な検討いただいて、提案をいただいております。それを今度まとめて19日に御説明できればというふうに思っております。あとは、海業もたくさんの方でしていますので、視察等を地元の方と行っているというところ。あとは特にモデルとしてはないですね。

以上です。

○議長（土谷 勇二君） 山内議員。

○議員（7番 山内 豊君） 今度私も行ってみたいと思います。

独自のものがあるから壱岐だということは本当にそのとおりでなと思っています。観光にしても何にしても独自のものがあるから離島なんだろうなど。これがつながってしまったら、多分壱岐ではなくなるんだろうなどという懸念もありますし。その中でやっぱり、市長がこれまでやられ

てきた公約という、この名前の重さ。100の政策は市民皆様と対話をしてきて培った政策である。その公約の重さというのは、やっぱり大事にしてもらいたいなと思っています。4つの港プロジェクトもそのうちの1つに入っているのだらうと思いますし、これからしっかりと見える形で着手をしていくというふうに思います。しかしながら、私、令和6年の6月会議のときに質問させていただいたときに、概算予算はどのくらいだということを多分言った覚えがあるんですよ。その中で、概算までは計算できていませんということでした。市長の説明を聞きながら、私なりに落とし込めないというのは、多分、数字がなかなかそこに入ってこないからイメージができないのかなと思っています。実際、まなびのみなとプロジェクトの石田ですかね。松永安左エ門の記念館のリニューアルの話があったときに、金額が10億円かかるだらうということをお伺いしています。それだとすぐパッと思い浮かぶんですよ。やっぱり10億円出してどのくらいのものできるんだらうなということ。その辺もこれから2年間かけてやられるんでしょうけども、もちろん財源がというふうな難しい問題もあります。その中でしっかりと国、県とパイプをつなげながら予算を確保していくというのが大事になってきますので、できるだけ早めに、どのくらいかかってこの補助金が使えとこということを、横のつながりを保ちながらしていただきたいと思っていますし、これは他市町も同様に連携を取りながら、良いものは良いとしてまねをしていく、悪いものは悪いものとして共有をしていくというふうなものややっぱり日本国をつくっていくかなと思っていますので、ちょっと大きくなりましたけど話が。それが最終目標です、私の。しっかりと壱岐をつくっていただきたいと思っています。そして、できないものを逐一言ったってしょうがないので、できないものはできないと。しかしながら、そこには必ず理由がある。でも、その理由にかこつけてできないということを長引かせるのではなくて、しっかりと前を向いて走っていただきたいと思っています。

1つ財源の話が出ました。ふるさと納税の30億円、今回11億円ということで建てられておりました。市町の公約がたしか30億円だったはずですが。その30億円をなかなか到達できないかなと思います。なぜかという、10億円で推移しているところに30億円と。その30億円を目指せる市長が考えられるその根拠というか、これがあるから30億円でいけるんだよということが分かれば、ぜひ教えていただきたいと思っています。

○議長（土谷 勇二君） 篠原市長。

○市長（篠原 一生君） 山内議員の御質問にお答えさせていただきます。

まさに、できていないところの1つがこの30億円とっております。ただ、この30億円を作ったとき、選挙のときになるんですけれども、ほかの地域、宮崎、都城市とかが190億円と、肉と焼酎で190億円。壱岐が30億円ぐらいできるはずだという思いでまずこの金額は、最初100億円って書こうかと思ったんですけれども、さすがにいきなり、今の実績と比べてという

ところで、自分の中でいけるはずだということで30億円にしました。できていないところではあるんですけども、実は今度10月に制度変更、ふるさと納税があります。ここが、先ほど山内議員が言うように、今まで10億円だったところから3倍に上がる、大きく変えなければいけない。このまま同じことをしていても多分いかないので、この10月に合わせていろいろ仕込みをしているといいますか、新たな制度も今作っているところであります。ぜひタイミングを見計らって、この新たな制度で壱岐がふるさと納税の聖地になるような取組に力を入れていきたいというふうに思っております。

具体的にはまだ何も、何もというかまだ言えない状況ではあるんですけども、近づいたらぜひ報告させていただきます。よろしく申し上げます。

○議長（土谷 勇二君） 山内議員。

○議員（7番 山内 豊君） 30億円。なかなかハードルが高いかと思います。しかしながら、10月に何とか何とかサンテンマルとか言うんじゃないですか、それもしかして。それを仕込みの真っ最中だということで楽しみにしております。ただ、今の現状を維持すると30億円は到底無理です。水産物もこういう現状ですし、肉もこういう現状です。一番の売れ行きは布団だということになっています。やっぱり、そういう面で30億円って到底無理なので、新しいチャレンジをまたそこでやっていくということは、しっかりと準備をされて、していただきたいと思います。これがもし実現できれば、本当に財源がとかという話は抜きにもできるし、しっかりと市長の施策として前に進めていけるのではないかと考えております。私なりにちょっと厳しいことを言いますが、なかなか市長は市民目線でしっかりやってきたというふうにおっしゃられたが、なかなかそれが目に見えて現れないというのが現状かなと思っています。これからあと先2年ありますが、そこでしっかりと形として残していただきたいと思います。

もう、ついでのついでにどんどん質問しますけれども、観光に関して市長の考えがなかなか伝わってこないなと思っております。もちろん、4つのみなとプロジェクトで、これは観光に絡みつけてやるというのも大前提にあると思うんですけども、観光行政を1つとって、市長はこれは私がやってきたことだというのがあるか、もしくは観光地の話もいっぱいありますし、観光地というところにお客様が来られるということを考えたときに、まずそこを整備しないとイケないなというのがあると思います。観光行政に関して市長がどういう思いがあるかということをお尋ねしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

○議長（土谷 勇二君） 篠原市長。

○市長（篠原 一生君） 山内議員の御質問にお答えさせていただきます。

私も観光に携わっておりましたし、福岡市に出向したときも観光の担当として行っております。そういった中で様々な観光、また状況が変わるといふところがありますし、お客様がいて観光が

ある、こちらが見てほしいものではなくてお客様が見たいものを見に来られるというところがあります。そういった中で、壱岐で何が一番いいのかといろいろ考えてまいりました。その1つとしてインバウンドというのも当然ございますが、それも簡単にできるものではないことではあります。ただ、これも壱岐市だけではなく、先ほど山内議員もおっしゃったように福岡市と連携するとか、他市との連携で可能性が見えてくるのかなと思っております。ちょうど明日、フランスのクルーズ船が来ると。明日じゃないです。来週か。明後日。すみません。明後日ですけれども来ると。今、話ではそのクルーズ船3年連続で来ますというような話もいただいていると。徐々にこのインバウンド政策というのを目を見てきたのかなというふうに思っております。ただ、壱岐市として離島というのがありますので、オーバーツーリズムになっている離島が多いというのも1つ課題として思っております。まだなっていないので、その心配するのもあれなんですけれども、とは言え戦略的にやるというときに、やはり壱岐は壱岐が好きの方が何度も来るとというのが結局一番いいのかなど。そのためには壱岐に来てみて、壱岐が好きになって、二地域居住などで何度も来るようになって、最後に定住すると。それが一番スムーズな流れだと思っておりますので観光政策、その入り口になります。また、先ほども言うように、今までは何かを見に行くというのが多かったんですけども、今後は体験しに行くとか、何なら人に会いに行くというのがメインの観光になってくるというふうになりますので、それは新たなプロジェクトの中で学びに来るとか、何かをしに壱岐に来るというのをまちの全体としてやる中で観光が伸びていくというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 山内議員。

○議員（7番 山内 豊君） ありがとうございます。オーバーツーリズムを目指してやっていただきたいと思います。インバウンドも、もちろん仕掛けがあってからのことなんでしょうから、どんどん発信してよくないですかね。もったいないなという気がします。せっかく来られているとなったら、もっともっと発信して、逆にそういう方とアポを取って、子どもたちの学びとして外語の学びとしてそういう時間を設けるとか、そういうこともあってもいいのかなと思いますし、だんだんやっぱり市民に定着していかないと、市長が政策に関してはもうズバ抜けて敏腕でしょうから、それに対してしっかり発信をしていかないと、なかなか市民の方は追いついていかないと。結局、「何もやっていないよね」というふうになってしまうので、周りを見たときにやっぱり市長の功績が残っていないと、市民の方はなかなか分かりません。実際ですね。難しい文章の中で「こうしました」「ああしました」とかということ言われても、はっきり分かりにくいので、そこは市長、すみませんね、立場を弁えて言いますが、本当に見えるようにことを進めていただきたいと思います。もちろん、その中で考えてある部分もあるでしょうし、もう

ちょっと先ということもあるでしょうから、それまでの経緯も含めてしっかりと見えるようなお答えをしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

あと2年先、2年間、しっかりと頑張ってやっていただきたいと思いますし、大変な時代ですよ。本当に大変な時代です。消費税もどうなるか分かりませんし、国の動向も見据えながら進めていかなければいけないと思います。しっかりと市長なりに見える化をして市民の方々に分かってもらえるような政策を進めていただきたいと思いますし、これからどんどん変わっていく時代に即応した、決して背伸びもしないで下を見据えてやっていただきたいと思います。

ちょっと時間も早いですが、これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

〔山内 豊議員 一般質問席 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 以上をもって、山内豊議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩をします。再開を10時55分といたします。

午前10時42分休憩

-----  
午前10時55分再開

○議長（土谷 勇二君） 再開します。

一般質問を続けます。

次に、10番、清水修議員の登壇をお願いします。清水議員。

〔清水 修議員 一般質問席 登壇〕

○議員（10番 清水 修君） 皆さん、おはようございます。お疲れさまです。

本日、3月会議2日目の一般質問の2番目を行わせていただきます。10番、清水修が通告に従い、大きく2点についてお尋ねをいたします。

今回は、もう本当、人口減少社会がこんなになるのかというぐらい自分の身の回りにおしあてても何かやる気というか意欲が持てないような、そういう気さえするようなことが増えたかなというような気もしていたものですから、今回、持続可能な社会を目指すための取り組むべき課題についてということで2つ挙げております。

1つ目の質問は、地域の共生社会実現について、持続可能なコミュニティの形成としての、昨日も出てきましたけどまちづくり協議会を中心にとというようなそういう話もなっているといふような気はするわけですが、やはりそこをいかに活性化・持続可能させていくかということになるかと思っておりますので、4点まずお尋ねします。

昨年の10月27日と今年の初めの1月20日に、壱岐市地域支え合い・助け合い勉強会というのに参加しました。一応、町協のほうに案内も来ていましたので参加したわけです。

私の住む地域は、御存じのように65歳以上が50%を超えるという限界集落にもう既になっ

ています。だから、お互いが自分の耕作地やいろんな道路とかそういった維持管理をすることが精いっぱい、とても支え合いとか助け合いとか、そういう余裕は持たなくなっているような、そういうことをいろんな活動を通じながら、要するにボランティアとかいろんな活動の中で集まってこられる方々を見ればどうしてもそういう気がして、活動の輪が広がっていったいないというのが現状でありますので、何かヒントがつかめないかという思いで参加しました。

確かに、集い合ってお互いの取組の情報交換などをすれば「ああ、そういう仕方もあるな」「そういう考えもあるな」という収穫は当然あるわけですが、じゃあ地元に戻ってそれをもとに何か違う切り口でやってみようかなということにはどうしても結びついていないという、そういう今があります。そこで、3月会議の市長様の市長方針において基本目標に、全ての市民が自分らしく安心して健康に暮らせる島の（4）地域共生社会の実現と（持続可能なコミュニティの形成）についての取組が述べられておりましたので、その中で地域住民が抱える課題が複雑化していることを踏まえ、支援を必要とする方々が地域で安心して暮らせるよう総合的・横断的な相談支援体制を充実させとありました。確かにそれはそのとおりなんですけど、具体的に市民の方にもそういう支援体制というものを一緒に出していただきながらお知らせできればなと思いましたので、1点目に総合的・横断的な相談支援体制がどのように充実されているのかということを挙げています。

2つ目、同じく基本目標の高齢者福祉の充実のところ、外出支援事業を実施するとあります。これをどのような支援を実施しようとしているのかというお考えをお尋ねします。

一方、地域交通DX、これはもう壱岐市全体のことでしょうけれども、地域公共交通再編計画の策定と地域内調整というのを今年度初めのほうからされてあると思いますので、どれくらい進んでいるのかというのが2点目です。

3つ目、地域コミュニティの維持活動、町協がないところもありますから、公民館とか町協、そういったところに参加できる方も高齢化で減少の一途でありますので、持続可能な活動は思うように進んでおりません。その文言の中で、組織運営アドバイザー等の積極的な活用を促しながらというのがありましたので、このアドバイザーさんの活用事例を、なかなかおられるというのは分かっていますが、どういうふうに頼めばいいのかとか、そういったことも含めて、そういった活用事例を聞きたいと思います。

4つ目ですが、これも直接の、あれではないかもしれませんが、要するに施設の老朽化が、いろんな場所で大きいものから小さい公民館クラスまで雨漏りとかエアコンの修理などとかが増えてくるんだろうと思います。これまでは本来、補正予算等でこの修理をきちんと予算化して、現状を把握して、そういうずっとしていただいていたと思いますが、それではなかなか現場の、例えば老人クラブで先日1月に石田のほうで大ホールでイベントというか、あれがあったんですけど

ど、そのときに空調は利いていなかったもので、もう寒くてこたえんやっただと行って、すぐ私の友人が電話をしてこられました。だから、それは仕方ないんですけども、できれば予備費とかをこれからはある程度そういった修繕せないかんことを想定されて応急処置のできる範囲でしていただけると、幾らかいろんな皆さん方の集まりとか何か支障がなくてきてくるのではないかなというような思いがしましたので、そういった老朽化対策の部分での何かできることがあればということ尋ねております。

以上、4つお願いします。

○議長（土谷 勇二君） 清水修議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。村田保健環境部長。

〔保健環境部部長（村田 靖君） 登壇〕

○保健環境部部長（村田 靖君） 10番、清水議員の、地域の共生社会の実現について、私のほうから1項目め、2項目めについてお答えさせていただきます。

まず、1項目めについてお答えいたします。

令和7年9月に本市の長寿支援課地域包括支援センターが主体となりまして、地域助け合い・支え合いフォーラムが開催されました。市内での事例紹介として、3つのまちづくり協議会による事例発表が行われました。高齢者へのお弁当の配食サービスではなく、みんなが集まって一緒に食べる供食の活動や、休耕地にミカンを植樹して地域住民が集まる居場所として整え、収穫体験時に住民同士の交流を促す取組、ちょっとした困りごとを地域の人同士でワンコインで手助けするサービスなど、それぞれの地域での特色ある支え合いの事例が紹介されました。

令和8年1月には9月のフォーラムを踏まえた勉強会が開催され、地域での支え合いに関するワークショップでは、支え合いのための居場所づくりや有償ボランティアの在り方などについて活発な意見交換が行われております。各まちづくり協議会において支え合いの取組の好事例がございますので、壱岐市としましては事例の情報共有等を通じて他の地域への展開等を支援してまいります。

また、地域での支え合いのフォーラム等の実施に関しましては、現在、市の長寿支援課をはじめ社会教育課、地域共創課に加えて外部の団体として壱岐市社会福祉協議会と連携して取り組んでおりますが、今後は子育て支援課や総務課とも連携して居場所づくりや地域住民同士の助け合い、地域交通等の移動の支援等に関する相談に対応できるよう体制の充実を図ってまいります。

次に、2項目めの御質問にお答えします。

なお、ライドシェアの部分は総務部の所管になりますが併せてお答えします。

初めに、外出支援事業の支援の内容につきましては、外出支援サービスとしまして、寝たきりや車椅子利用のため一般の交通機関では移送することが困難な65歳以上の高齢者に対して、リフト付き自動車等を利用して移送サービスを行うことにより、寝たきり高齢者の社会活動の範囲

を広げ福祉の向上を図ることを目的としております。自宅から病院間の通院、入退院時の移動に利用でき、自己負担は利用者の世帯課税状況に応じて負担いただいております。利用時は市に申請書を提出していただき本人の身体状況が利用を必要とするかを市が判断し、申請者と社会福祉協議会に決定通知と利用登録通知を行います。事業運営は社会福祉協議会へ委託しておりますので、利用の際は社会福祉協議会各支所へ直接依頼していただいております。

次に、ライドシェアとかの交通移動支援はどれくらい進んでいますかについてお答えします。

交通移動支援等の進捗状況につきましては、現在、総務課において地域の実上に即した持続可能な公共交通体系の構築を目指し、壱岐市地域公共交通計画を本年度中に策定するよう進めているところであります。令和8年度には本計画の方針をもとに陸上交通における路線バスの再編、区域運行、デマンド交通への転換等の具体的な施策の実行計画となる利便増進計画を策定する予定としております。その後、新たな移動手段の実証実験を行い、その結果を踏まえまして、早ければ令和9年度からの実装に向けて国・県の様々な補助メニューを活用しながら取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔保健環境部部長（村田 靖君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 塚本地域振興部長。

〔地域振興部部長（塚本 和広君） 登壇〕

○地域振興部部長（塚本 和広君） 10番、清水議員の3番目の御質問にお答えします。

地域での高齢化や人口減少が進む中で、耕作放棄地の増加は深刻な問題であると認識しております。多くの耕作放棄地の管理について、まちづくり協議会がどこまで、どのように関わっていくのかも難しい問題です。地域によっては、休耕地にミカンを植樹し地域住民の居場所づくりや交流促進に活用しようとする事例もあります。耕作放棄地に新たな活用法を見出していくというのも1つの考えだと思いますが、そのようなときに組織運営アドバイザーが活用できると考えます。組織運営アドバイザーは主にまち協の組織運営をより活発化するために支援を行いますが、それに付随して地域や町協の困りごとに地域の人が対応できるような手だてを見つけるためのお手伝いもできます。一例を挙げますと、昨年、初山地区まちづくり協議会で次期まちづくり計画書の策定に当たり、地域の小中校生を対象にしたワークショップが開催されました。このワークショップの開催に向けたまち協と地域担当職員及び地域共創課との協議や意見交換の場に常にリモートで参加してもらい、組織運営アドバイザーよりワークショップの設計や内容、そして流れからタイムスケジュールに至るまで総合的な提案をしてもらったところです。また、ワークショップ当日は壱岐まで出向いてもらい、ファシリテーターとしての進行役をしてもらうなど積極的に関わってもらいました。市としましても引き続き、各まち協において組織運営アドバイザーと

地域担当職員の積極的な活用が図られるような環境整備に取り組んでまいります。

〔地域振興部部長（塚本 和広君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

〔総務部部長（平田 英貴君） 登壇〕

○総務部部長（平田 英貴君） 清水議員の4点目の御質問にお答えをいたします。

施設の老朽化に伴う雨漏りやエアコン等の改修工事をできる限り早くできないかという御質問でございます。

公共施設の各種修繕等につきましては、近年の夏場の気温上昇による熱中症対策もございますので、既存の空調の改修につきましては利用頻度も考慮しながら可能な限り対応してきているところでございます。しかしながら、一般的な施設の空調の更新については地方債などの充当も難しいものが多く、限られた財源の中では利用頻度や老朽具合などを勘案しながら年次的に行っているところでございます。

一方で、老朽化した施設においては、突発的な不具合が発生することも少なくありません。修繕費用が少額の場合や人命等に関わる緊急な対応を要するような場合は、既存予算において流用や予備費の充用などによる対応も行う場合もございます。皆様からお預かりをしている貴重な税金を財源とする以上は、予算に基づいた計画的な執行を大前提とした上で、発生した不具合の規模や緊急性等を適切に判断して、できる限り早く対応を努めたいと考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いをいたします。

〔総務部部長（平田 英貴君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 清水議員。

○議員（10番 清水 修君） 4点にわたり丁寧に御質問、そして分かりやすく、自分も「なるほど、そうだそうだ」と思いながら聞かせていただきました。ありがとうございます。

1点目の、支え合いとかそういう相談支援体制の件ですが、いろんな包括支援センターがあって、あとはそれぞれの長寿支援課とか社会教育課とか社協とか、いろんな組織といいますか課がありますから、そういったところにいろんな形で相談をしていきながら、そういった支え合いが外からはしていただけるし、私たちまち協や公民館等におきましても、そういったことを中心に少しでも困っておられる方に手が行き届くように。本当に私もこのフォーラムや勉強会で聞いたとき、ちょこっと手助けの有償ボランティアの事例を聞きました。うちの町協では環境整備の草刈り等について有償ボランティアで、日当ボランティアで何回かやっているのですけれども、やはり何らかのそれなりというか、今度はそれぞれのお困りごとに対する支援については助けてもらいたい方も何かお礼をしたいとか、そういう気持ちはどうしても起こられるから、ちょこっとボランティアに対して安価なワンコインとかそういう形でしたほうがお互いしやすいのではない

ですかという事例を伺いましたので、そうやって何か地域の方とまち協がいろんなイベントとかだけではなくてつながれるということが、見守りとか、そういったいろんな次の段階への活動にもつながりますので、そのところはしっかり受け止めて、次年度の活動に活かしていきたいと思います。

2つ目の外出支援事業については、寝たきりとか車椅子とか、いろいろそういう段階の方々がおられるので、それに応じたいろんな申請とか何かをしながら、きちんと支援をしていっていますということでしたし、DX計画も今年度にあらかたの計画ができ、8年度にかなり具体的な実装にして9年度にできるところから、そういったライドシェア的な取組もできていくという道筋がよく見えましたので期待をしていきたいと思っています。

これはちょっと全然話が違うんで、別に異議とか何とかではないんですけども、去年の選挙のときに、どうしても選挙に行きたいけど要介護4だから、そういった外出支援が5しかできませんと。4であるならば、家族の方とか誰かにちゃんと連れて行ってもらってくださいとかいうようなことがあって、少しやり取りをして行ってもらったりしたことがありますけれども、その辺も含めて、大事な選挙の一票に対しては、また同じような外出支援ではなくて、これは選挙管理委員会等のことかもしれませんが、その辺もできるだけ権利が守られるようお願いをしたいと思います。

3つ目のアドバイザー活用事例、これも初山小学校の事例は何となく聞いていたので、よりやり方等も詳しく伺いました。やっぱり、どうしてもこう、まち協も年数が経っていくと、どうしても今までしていたことをすることが丸みだいな形で、いわゆる5年経って次の計画を立てなきゃいけない、そういった中で地域住民の皆さんや未来を支える子どもさんたちの意見をより多く吸い上げたいということで、うちではアプリを活用していろいろアンケートをしたり、いろいろな苦勞を支援員さんにされていたようですけれども、そういったことを基にしながら、こういったワークショップができるような、そういった段階に持っていけるように働きかけていければなということをおもいました。やはりこういった、ちょっと私たちの身の回りでは打ち出しにくいような方の、最初はどうしてもそういった敷居が何でも高いので、その辺の部分をやっぱり一歩踏み出しながら役立てていきたいと強くおもいました。

そして、老朽化対策については、空調関係は本当にできるだけ素早くやっています。そして、大きなものについては地方債等いろいろなものがあるので、なかなかすぐにはできない部分もあるけれども、人命に関わるとかそういった事象に応じて対応もしていただくということが、努力されるということでしたので、本当にいろいろな面で大変それぞれの各課の御苦勞おかけしますけれども、よろしくお願いをして次に進みます。

2つ目の質問は、新しい人の流れをつくる取組についてです。

地域の価値と新しい人の流れが未来をつくる島、希望の持てる島づくりに向けてのお尋ねです。

この部分が、やはりこれからは今までの一般質問の中でも出てきていますけれども、外からのというよりも、やはりこの市民の皆さん方への理解というのが大事ですよということですので、これからの協力を得るためにもこの3点についてお尋ねします。

未来大国づくりの1年目の取組として、カルチャーターミナル壱岐の魅力の再発見とか再定義とかということを挙げておられました。この辺、どのように再発見されたり、壱岐の魅力はこうなんだろうという、先ほど市長さんが言われたこととだぶるのかもしれませんが、どういふ再発見があったのかということをお伺いします。

2つ目に、ここが一番大事と思うんですけど、この二地域居住事業の取組の状況はどこまで進んでいますかということで、特定居住計画に基づき特定居住支援法人とか指定制度とか、二地域居住等促進協議会とか何かそういうのを組織するとか、いろいろ文言的には調べれば出てきたんですけど、具体的にこういったことができていれば具体的な内容を教えていただければと思います。当然、市長さんのお考えにもこの二地域居住ができる人たちは準島民という形での受け入れで交流人口をずっと増やしていった、定住に結びつけるというお考えでありますので、どこまで進んでいるかということでお尋ねします。

3つ目の、今年度のウルトラマラソンとピース文化祭、本当にどちらも、ウルトラマラソンも最高の参加者でしたし、ピース文化祭もこれまでにない本当に次につながるイベントになったと思います。今後の飛躍に向けての取組について、新しい人の流れにつながるという観点で、どのように今後の取組を考えられているかを尋ねます。よろしくお願ひします。

○議長（土谷 勇二君） 小川総務部次長。

〔総務部次長（小川 和伸君） 登壇〕

○総務部次長（小川 和伸君） 10番、清水議員の1点目の御質問にお答えをいたします。

カルチャーターミナル壱岐プロジェクトにつきましては、今年度より開始した事業でございます。新しい長崎県づくりのビジョン、未来大国の実現に向け、本市の強みを活かして地域課題解決や地域活性化を図ることを目的としております。人と文化が交わるターミナルとして学びを切り口に壱岐の魅力を再編し、交流人口拡大から関係人口化、将来的には二地域居住や定住人口の増加につなげる取組であります。具体的な取組としましては、複数のプロジェクトを並行実施しております。その1つ、IKITONEプロジェクトでは、色をテーマにした魅力の再編を進めております。農協まつりやカルチャーターミナルフェスなどのイベントに出展をし、市民の皆様から好きな壱岐の色を募り、それを色見本帳としてまとめる活動を行っております。今後、集めたこの壱岐らしい色を商品パッケージやPR素材に活用するなど、実用化の段階へと発展させていく予定です。また、その過程についても、デザインや商品開発、マーケティング、プロモーション

ョンとビジネスを学ぶ要素に切り分けられますので、実践的に学ぶ教材としても応用していく予定です。カルチャーターミナルフェスをはじめ、その他の取組においても本市の持つ自然資本や歴史文化、あるいは日本社会の縮図ともいえる産業構造などの地域資源がリアルな社会課題に触れ、学ぶための素材として活用できる可能性が、大学や企業等との調整の中でも確認されています。次年度以降は本格的に教育プログラムを開発してまいります。実際に大学生や企業人が壱岐に研修等に来島し、島丸ごとキャンパスとして地域で活動する機会が増えることで、市民皆様との交流機会も一層活発化するものと予想されます。こうした交流が市民の皆様にとって、地域のことや御自身の事業のことを改めて見つめ直し、壱岐の魅力を再発見する貴重な機会となることに期待しておるところでございます。

以上でございます。

〔総務部次長（小川 和伸君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 塚本地域振興部長。

〔地域振興部部長（塚本 和広君） 登壇〕

○地域振興部部長（塚本 和広君） 10番、清水議員の、2番目と3番目の御質問にお答えいたします。

まず、二地域居住の促進につきましては、本年度、国土交通省の補助制度を活用して取組を進めているところでございます。現状としまして、特定居住支援法人の指定制度につきましては、壱岐市特定居住支援法人の指定等に関する事務取扱要項を制定し制度を整備したところでございます。また、壱岐市特定居住促進協議会につきましても、市内の主要な関係団体等に参画いただいて設立しており、2月24日に会議を開催し、二地域居住の促進に関する市の取組の現状等につきまして、説明並びに意見交換等を行ったところでございます。

特定居住促進計画につきましても市で素案を策定し、当該計画において特定居住促進区域としている地域住民の皆様への説明及び意見交換、長崎県への意見紹介を行い、先に述べました壱岐市特定居住促進協議会においても内容を説明し、意見交換を行ったところでございます。

二地域居住者を準島民として、有人国境離島法の運賃低廉化の対象とすることに関しましては、既に制度化が図られているところですが、どのような方を二地域居住者として認定するかについては自治体の判断となります。特定居住促進計画において、二地域居住者の要件整理についても示しておりますので、今後、国等と要件についての調整を行い、二地域居住者の具体的な取扱いについて協議を進めてまいります。

次に、文化・スポーツ振興についての御質問にお答えいたします。

本市の文化・スポーツ振興事業につきましては、今年度新設しました文化・スポーツ振興課において様々な取組を進めております。

スポーツ面では、議員お尋ねの、壱岐ウルトラマラソンにおいて過去最高の878人のエントリー、また、ポータルサイトのRUNNETウルトラマラソン部門において89.7点の高評価をいただき、初の全国第一位を獲得できたことは、次回大会に向けての大きな活力となりました。この評価をさらに継続し高めていくためにも、お金をかけて何かプラスするというより、いろいろと工夫・検討を重ねながら、引き続きランナーの皆様もとより市民の皆様にもさらに満足し楽しんでいただける大会運営に努め、目標であるエントリー数1,000人の達成を目指してまいります。

次に、文化面では、ながさきピース文化祭・壱岐市大会を開催し、市民皆様の主体的な関わりと事業への取組によって、市民同士のつながりも深まり、それぞれの文化を次世代へつないでいく契機となる大変意義のあるイベントであったと考えております。

特に俳句においては、夏井いつき先生の講演会を実現できたこと、また、市内小中学校への俳句ポスト設置事業では、想定を超える1,400もの句を投函いただくなど、大きな成果と反響がありました。講演会では俳句への取組が市民皆様、特に子どもたちの豊かな心を作り出していく影響力の高さを認識したところであり、俳句ポスト事業では、全国的な俳句人口の多さも再認識したところがございます。そうした俳句に取り組む方々の、いわゆる吟行ツアーの受皿となる地域を目指すべきであると考え、俳句の聖地といえば愛媛県松山市と言われておりますが、本市としては離島の俳句の聖地を目指し、離島俳句甲子園への取組に次年度から挑戦することとしております。

このような壱岐ならではの魅力的な文化・スポーツを新しい人の流れにつなげるため、文化団体の要件を拡充した文化スポーツ合宿への補助金等を有効に活用し、交流人口の拡大を図ってまいります。

以上でございます。

〔地域振興部部長（塚本 和広君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 清水議員。

○議員（10番 清水 修君） 何かわくわくするような話を最初の触りだけでもこうやって言っていただけだったので、とてもよかったです。

1番目の色について、いろんなイベントをしながら、その参加者で今色を決めようとしているという、なんかすごく、そういったのがやっぱりコンセプトとしてあるのとないのとは、いろんなデザインとか、それから先の関連グッズとかいろんなのを作る商売といいますか、そういったものにつながるところなので、この色の検討について、もう少し何か詳しい部分が、例えば何色と何色と何色がとか、壱岐は海と空が何とかだからこうだとか、そういうことがあればお願いします。

2つ目の、二地域居住の分ですが、この2月24日に協議会を開催されて、ある程度の骨子と  
いますか、今度の全協等でもお話があるんだろうと思いますが、そこの中で出てきました特定  
区域を設定するということがあったと思うんですけど、特定区域というのはどこなのかという  
部分がもし分かれば、2つ目では再質問します。

3つ目のウルトラマラソンと俳句の交流ということで、離島俳句甲子園に挑戦されるというこ  
となんですけど、ウルトラマラソンのほうでは、1,000人を目指してお金をかけないでいろ  
んなことに、参加者目線といますか、または市民の方の協力者目線といますか、そういった  
ことの、今年度したのと違う今年の大会はこういうところがちょっと変わりますよというか、そ  
ういう何か、もしできていればお聞かせください。

俳句甲子園ですけど、とてもすばらしい事業が始まるなと思っていますが、自分もちょっと、  
前も言いましたけど国語大嫌いで、全然そういった感覚が、言語感覚がないので、非常にこれか  
らの流れについていけないと思う反面、なんか抗いたいなというふうに思って、ちょっとある  
方にいろんな御指導を受けながら始めているんですけど。あと、この文化スポーツ合宿、いわゆ  
るこれまではスポーツ合宿への補助というのがかなりの部分だったと思います。これからは文化  
のそういった、俳句の会が向こうから来るとか、何かいろんな形でされていくんだろうと思いま  
すので、その辺のこの離島の俳句甲子園に向けての、そういった新しい流れというのが、もうち  
よっと何か補足があればお願いします。

以上、再質問をお願いします。

○議長（土谷 勇二君） 小川総務部次長。

○総務部次長（小川 和伸君） 清水議員の1点目の御質問にお答えをいたします。

まず、IKITONEプロジェクトの進捗状況についてでございます。

これまで、先ほど申し上げましたとおり、イベント等の出展によりまして、大体300色サン  
プルぐらいを集めております。今、現時点としましては、その色を微調整してデジタル化をする  
ようにしております。最終的には、大体、壱岐の色として50色ほどの色見本帳というようなも  
のを作成できればと考えております。その中で、特に多いと感じたのが、やっぱりブルーの色か  
なと思っております。壱岐は周辺海に囲まれておりますので、皆さんが考える壱岐のイメージと  
いえば、やはりブルーが多いと。ただ、そのブルーの中でも、例えばですが筒城浜の海の色と、  
辰の島の海の色が若干違います。そういった同じブルーでも筒城浜ブルーとか、そういった名称  
を付けながら、そういった色見本帳を制作していきながら、今後はホームページ等でも公開をし  
て、そういった色を使って、例えばですが島内事業者さんがお土産の袋に使うとか。あとは今、  
エンゲージメントパートナーとも協力しておりますので、商品化を検討していくというふうな流  
れで考えております。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 塚本地域振興部長。

○地域振興部部長（塚本 和広君） 清水議員の二地域の特定区域の件についてお答えをさせていただきます。

区域につきましては、現在、芦辺浦と瀬戸、この二地域を選定し、今後進めていくような形にしております。

それから、文化・スポーツ関連に関しましては、次長のほうから答弁をさせていただきます。

○議長（土谷 勇二君） 岡部地域振興部次長。

○地域振興部次長（岡部 一也君） ウルトラマラソンについての御質問にお答えをいたします。

令和8年度に新たに取り組むというところについては、昨日御質問がありました仮設トイレについてを和式から洋式化をするということが1つ。2つ目が、見送り対応を昨年も強化いたしました。さらに強化をして、ここについてはランナーの評価も大変高かったと。見送りまでしていただいて感動したというお声をいただきましたので、そういったことについてさらに強化をしたいというところ。あと、お金をかけるというところで、お金は少し若干かかりますが、少し動画を撮影をして壱岐の魅力を伝えると、そういったものを発信してエントリー数を増やしていきたいというふうに考えております。

現時点では、以上の3点程度が新たに取り組む内容となっております。

次に、離島俳句甲子園についてのもう少し具体的なことということでございますが、今回の事業では俳句を知る、言葉を知る、郷土を知ることが子どもたちに伝えたい、子どもたちに植え付けたいということで、一番効果のあると言われている小学生に対してこの授業を実施していくということを考えております。

具体的なスケジュールについては、5月ぐらいから全国の離島に授業の内容を呼びかけまして、夏休みの間を利用して俳句とはこういうものだということをレクチャー、教えるという期間にしまして、その後、予選をして11月、はっきり日程まだ決めておりませんが、11月ぐらいを目途にトーナメントで優勝者を決めるというふうなことを今考えております。詳細についてはまだ今から詰めるところがありますので、分かり次第またお示しをしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 清水議員。

○議員（10番 清水 修君） ありがとうございます。時間も残り少なくなりましたが、私たちというか壱岐のランナーを中心に1,000人突破応援隊を一応作って、いろいろ市の皆さん方、担当の方々には御迷惑をかけている部分もあると思いますが、いろんな要望も聞いていただきながら、特に先ほど言われた見送り隊の部分が非常に、やっぱりそうだと思います。島に行っ

て、こうやって手を振って船を見送るという場面は卒業シーズンでも同じですけど、やっぱりいいもんだということだと思うんですけど、これも今まで言ってきたんですけど、私もちょうど次の日が市民体育大会があるもので、ランナー関係の人たちとかは、そういうのはしたくてもできないという状況が今までずっと続いておりました。要望も、どちらかを1週間ずらして検討できないかというような要望も出したりはしておりましたが、いろんな、いわゆる壱岐の島ホールと離島センターの場所の確保とか、いろんなものの中でなかなかそのところのあれができずに、十分な私もお見送り体験ができていないんですけども、これは要望として、そういう競技者が連日、前から言えば準備とウルトラマラソンと市民体育大会というのが続くものですから、どうか調整できれば、ここは検討をしていただければと思っています。

あとは、私たちの応援団では逆回りコースの検討とかいうのも署名をしたり、何かいろいろして、そういった取組も検討をお願いしておりますので、単純に1回逆回りでやってみて、第10回大会の来年にもう少しきちんとしたものとかいう、そういういろんなやり方もあろうかと思えます。確かに、これまでと同じように10月にやって、そして準備は並行して、どうか検討はされるかもしれませんが、なかなか実装実験的にする機会とかもないかなというようなことをいろいろ考えたりしておりますけど、その辺も含めて御検討していただければと思います。本当にお金をかけずにという部分がありますけど、あともう1点はこのボランティアで施設応援団とか、または給水所の拠点となります地元公民館とか、いろいろな方々が御協力をされていると思えます。あくまでボランティアだから、これもボランティアですよで「ありがとうございました」で終わっていいんでしょうけど、何らかの次につながるような部分もできるなら検討していただきたいし、また、商品とか、やっぱり2万円とか1万7,000円かけて参加費を払っていろいろ来られますので完走賞プラス、何か聞くところでは今年はフィニッシュタオル、そういったのも検討しているみたいなことを聞いたりはしましたけど、そういった少しでも1,000人突破につながるようお願いをして終わりたいと思います。

昨日のニュースかな、上五島での吉永小百合さんが、「てっぺんの向こうにあなたがいる」という、このエベレストの女性の初の登頂者の田部井淳子さんの映画をMTG社長の松下さんがされて、大々的にできたという放送があってました。あるいは、そういった地元の社長とかいろんなエンゲージメントのいろんなそういった方々のお力をお借りしながら、これからさらにいろんなイベントがよりよいあれになっていくんだろうということを期待しています。先日の中央ヤクルトさんの健康セミナーは本当に、私も参加させてもらいましたが、午前中は子どもたちの発表会があって、午後に行ってみたら、ものすごい数の方が来られていて、本当にびっくりするぐらいの人手でした。やっぱりそういった力が一緒になってすることで生まれてくるんだなというのを目の当たりにしました。

最後に、この会議の俳句をして終わります。

はるあさし、島の未来へ、また一步。頑張ります。ありがとうございました。

〔清水 修議員 一般質問席 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 以上をもって、清水修議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩をいたします。再開を午後1時といたします。

午前11時45分休憩

-----  
午後1時00分再開

○議長（土谷 勇二君） 再開いたします。

一般質問を続けます。

次に、1番、菊池弘太議員の登壇をお願いします。

〔菊池 弘太議員 一般質問席 登壇〕

○議員（1番 菊池 弘太君） こんにちは。1番議員、菊池弘太が一般質問させていただきます。

一般質問、2日目の終盤まで来ております。

先ほど、清水議員がマラソンの話をされましたが、マラソンでいいタイムを出すためには後半が勝負です。最後までお付き合いください。

今回、5つのテーマを準備してきました。5つについては一見つながりがないように思いますが、市政の取組の見え方、見せ方というテーマでお伺いしたいと思っております。

壱岐市においては、これまでも様々な施策や事業に取り組まれていると認識しております。しかしながら、市民からは、市が今何をしているのか、その取組がどのような成果につながっているのかと、少し分かりにくい部分もあるのではないかと感じています。

本日、山内議員の質問にもありましたが、市や市長が目指す方向が見えにくいのだと思います。それを端的に示したのがこちらになります。

これは、第4次壱岐市総合計画を策定する際に、市民と市の職員にとった満足度調査のアンケート結果です。上のオレンジ色のグラフが市職員の結果、下の青いグラフが市民の結果です。これ、グラフの上のほうが満足度が高く、下のほうが満足度が低いという結果です。なので、職員の方のアンケートの満足度は高く、市民の方のアンケート結果の満足度は低い、というようなことが示されているものになります。ここにも書いてあるのですが、市民は行政に対して厳しい回答をする傾向にあるのでこういう結果が出るのかもしれませんが。行政は施策を実施することに加えて、その内容や成果を市民に分かりやすく伝え、見える形にしていくことも重要であると考えます。そうした観点から、今回は、見えない行政から見える行政へ、という視点で5つのテーマについて質問させていただきます。

まず、最初に、エンゲージメントパートナー企業についてです。

こちらは、率直に市民からの評価が悪いです。私の周りでは、エンゲージメントパートナー企業がどのような活動をしているのか分からない、という声をよく聞きます。昨年開催された、壱岐カルチャーターミナルフェス2025においては、エンゲージメントパートナー企業9社が登壇し、これまでの壱岐での取組が紹介され、また、広報いき2月号にも掲載されたので、9社の取組については分かりました。一方で、2026年3月時点で60を超える企業・団体と締結状況にあります。2022年から始まったせいだと思いますが、中には活動実態が十分に見えない企業もあります。このことについて2点お伺いいたします。

本市のエンゲージメントパートナー協定において、締結を解除するルールはあるのでしょうか。例えば、千葉県船橋市や鹿児島市では、2年以上連携実績がないかつ将来的に連携可能性が低いと判断した場合は、包括連携協定の解除というルールが設けられております。

2つ目です。北海道東川町のオフィシャルパートナー制度を参考にしていると以前答弁がありました。東川町の取組と、壱岐での取組は類似しているように思いますが、東川町は取組が功を奏して、例えばファミリー世帯の移住が増えています。もともと北海道第2の都市である旭川市のベッドタウンということで人口が増えた経緯もありますが、成果を出し続けているオフィシャルパートナー制度の東川町、市民に不人気の壱岐のエンゲージメントパートナー企業。東川町は2019年から、壱岐市は2022年からと開始時期の違いはありますが、本市の取組としてどのような点が不足していると考えているかお伺いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 菊池弘太議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。小川総務部次長。

〔総務部次長（小川 和伸君） 登壇〕

○総務部次長（小川 和伸君） 1番、菊池議員の御質問にお答えをいたします。

エンゲージメントパートナー協定につきましては、令和8年2月末現在で60件の企業、大学、自治体等と締結させていただいております。

菊池議員の御指摘のとおり、どのような活動が行われているのか分かりにくいという声があることも認識しております。本制度は、具体的な取組が決まってから締結する一般的な包括連携協定と異なり、お互いの特徴を活かして何ができるかを共に考え、関係性を構築していく前段のプロセスを大切にしております。事業の検討や構築の期間においては、外から活動実態が見えにくいという側面がありますが、この信頼関係を築くプロセスこそが新たな価値創造につながる本協定の最大の特徴です。

御質問の協定の解除についてでございますが、協定書においては活動実績が見られない場合や、双方の事情により継続が困難となった場合は、協議の上で更新を行わない、あるいは解除できる規定を設けております。しかしながら、本制度においては活動がないから解除するという考えは

取っておりません。本協定は、締結を維持すること自体に市の財政的負担が発生するものではなく、むしろ関係性を長く継続していくことこそが重要であると考えております。長期的なつながりを保つことで、将来的に新たなニーズが合致した際、迅速な事業展開や投資、ひいては本市への経済的な還元へとつながる可能性が高まるためです。包括連携協定のように、実績がないから解除するというルールに縛られることなく、多様な接点を持ち続け、壱岐の長いパートナーシップを育むことで持続可能な地域課題の解決を図ってまいります。

次に、2点目の御質問にお答えをいたします。

本市のエンゲージメントパートナー制度については、北海道東川町のオフィシャルパートナー制度を参考に創設をしました。また、時期を同じくして東川町においても自治体とのパートナー締結の仕組みを同制度に盛り込まれ、制度の充実が図られておりますが、この自治体間での連携という仕組みについては本市の取組を参考にされたという経緯もございます。東川町は、人口が増加し続けている町として全国的にも注目されております。その背景には、1985年に写真の町宣言を出し、自然と文化と人が出会う写真写りのよいまちづくりを進めてこられた経緯がございます。それにより醸成されたシビックプライドが東川スタイルとして定着し、その価値に共感する人々を惹きつけ、移住者が増えた結果としてパートナー企業も増えていくというよい循環が生まれているものと認識しております。

一方で、高校進学タイミングで隣接する旭川市圏域へ流出するなど、本市と類似した課題を抱えられているのも事実であります。東川町の特筆すべき点は、東川スタイルという共通の価値観のもと、市民、地域事業者、オフィシャルパートナー企業、行政、議会が同じベクトルを向いている点にあります。そして、その実現のために、オフィシャルパートナーとの連携、地方創生関係交付金やふるさと納税、地域おこし協力隊、地域活性化企業陣、その他の交付金や特別交付税など、多様な制度を戦略的に人、物、金の資源として活用しているところが特徴的です。

本市としましても、こうした先進的な手法に学び、壱岐新時代の実現に向け戦略的に取り組んでまいりたいと考えております。また、お互いの良い部分を吸収し高め合いながら、双方の制度がアップデートしていくような関係を大切にしていきたいと考えております。東川町も制度開始から6年経ち、やっと形として見える成果が生まれてきております。本市におきましても、主に、壱岐新時代に向けた4つのみなとプロジェクトにおいて連携の成果が生まれるものと考えております。

早期に市民の皆様にも効果が体感いただけるよう、プロジェクトの実現に向けて邁進してまいります。

以上でございます。

〔総務部次長（小川 和伸君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） 答弁ありがとうございます。

先ほどの質問の中で壱岐の特徴は何かなという、市長、考えられておりましたが、東川町の場合、写真の町という強烈なPRする要素があります。なので、壱岐島もそういう要素があったほうがいいのかなども自分も思っています。

東川町のオフィシャルパートナー制度という手引きがあります。ごめんなさい、こちらは壱岐のやつです。壱岐のエンゲージメントパートナー制度の概要と、あとこちらが東川町のオフィシャルパートナー制度の手引きです。これ2つを比べると、やっていることはほぼ同じです。まねているからだと思います。ただ、こっちに東川町にあって壱岐にないものが1つあります。それは何かというと、東川町の場合はオフィシャルパートナーが取り組んだ、連携した事例が出ています。なので、市民の方もこれを見たら、こういう企業がこういう取組をしているんだということが一目瞭然で分かります。壱岐市の場合は企業との連携が、まだ日が浅いというのものもあるかもしれないのですが、これが市民に伝わっていないのかなというふうに思っています。これは以前、本市でも講演された佐賀県の元武雄市長である樋渡啓祐さんがよく使う言葉を紹介します。

「いい政策でも知られなければ意味がない。行政は政策を作るだけでなく、伝えることまでが仕事である」ということをよく話されます。

ここから再質問です。

今後、エンゲージメントパートナー企業の発信方法についてどのように取り組んでいくかお伺いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 小川総務部次長。

○総務部次長（小川 和伸君） 菊池議員の御質問にお答えをいたします。

今後のパートナー企業との共創の状況なのですが、幅広くお知らせするというのをしたいと思います。特にホームページとか、そういったものと、あとは、また次年度もカルチャーターミナルのイベント等も計画しております。そこでもまた今年度と同じような形でオフィシャルパートナーとの共創の交流の場、そういったものを設けていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） ありがとうございます。また来年度もカルチャーターミナルフェスでエンゲージメントパートナー企業の方に登壇というか、そういう機会があるのかなというふうに思っております。私もそれでいろんな企業の方と知り合えたり、そういうのを楽しみにしております。エンゲージメントパートナー企業についての質問はこれで終わるのですが、私はエンゲージメントパートナー企業について3回目の質問をこれまでしています。なので、4回目の質

問をしたくならないように今後の取組を期待しております。

続いて、2つ目の質問です。

次は、情報発信の在り方についてです。先日、広報委員会で大阪府八尾市議会の取組を視察してきました。議会の取組ではありますが、行政の情報発信にも参考になる点があると感じたので御紹介させていただきます。

八尾市議会は編集方針として、伝える紙面づくりから伝わる紙面づくりへという基本方針が掲げられており、単に情報を発信するだけでなく必要としている受け手にしっかり届くことを重視している点が印象的でした。壱岐市においても情報発信が行われていないとは思いますが、情報が十分に届いていない部分もあるのではないかと感じています。

その一例として、先日募集が行われた壱岐市過疎地域持続的発展計画案に対するパブリックコメントがあります。本計画は1月16日から2月14日まで約1か月間募集が行われ、2月20日に結果が公表されました。意見提出者は1名であったとされています。この計画はこの後の本会議でも議案にかけられる重要な内容であると考えますが、パブコメの意見が1件にとどまったことについてはもったいない結果ではないかと感じています。

そこでお伺いいたします。

今回のパブリックコメントが1件にとどまったことについて、市としてどのような所感を持っているのかお伺いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 塚本地域振興部長。

〔地域振興部部長（塚本 和広君） 登壇〕

○地域振興部部長（塚本 和広君） 1番、菊池議員の御質問にお答えいたします。

壱岐市過疎地域持続的発展計画案に対するパブリックコメントを壱岐市政策市民参加制度パブリックコメント実施要項に基づき1か月間実施しましたが、1件にとどまったことにつきましては市としても残念な思いでございます。

本市のパブリックコメントにつきましては、主に市のホームページにて意見募集を行っているところですが、ホームページでの周知に頼ったところが提出者が少なかった一因であるとも考えております。

今後の改善点としましては、4,800人以上が登録している壱岐市公式ライン等のSNSやケーブルテレビの行政情報枠を活用してパブリックコメントの実施に係る周知を行ってまいります。

以上でございます。

〔地域振興部部長（塚本 和広君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） ありがとうございます。壱岐市政策市民参加制度（パブリックコメント実施要項）の第1条の目的に次のように記載されています。

市政への積極的な市民の参画を促進するとともに、市の施策等の形成過程における公正の確保及び透明性の向上を図り、市民とともに歩む共同の市政を推進することを目的とする。と書かれています。つまり、市民が参加して初めてパブコメが成立します。たまたまかもしれませんが、今回の壱岐市過疎地域持続的発展計画案について提出者が1件というのは重く受け止めるべきだと思います。

今後の改善点として、公式LINEの活用やケーブルテレビの活用ということがあったので、今後はそのようにパブコメの意見が出るようお願いできればと思います。

これは私からの提案になるのですが、今の公式LINEとケーブルテレビの周知も行いながら、壱岐には様々な団体があります。例えば、壱岐市観光連盟、商工会はじめ、まちづくり協議会、そして私も参加させていただいたのですが、壱岐島リハビリテーション研究会のような様々な組織などがあります。そういった組織に案内文を出して、パブコメ実施要項に記載されている市民の参画を促進するということが市長が掲げる「一緒に推進」ということだだと思います。また、エンゲージメントパートナー企業にもパブコメの案内をかけていいと思います。意見を出すか出さないかは企業の判断になりますが、小さいボールを投げて、もしかしたらそこから事業が始まるかもしれません。案内紙を作って関係団体にメールを送付する手間をかけられないでしょうか。もう一度質問します。

今後、パブコメを募集する際にどのようなことを心がけるでしょうか。お願いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 塚本地域振興部長。

○地域振興部部長（塚本 和広君） 菊池議員の再度の質問にお答えをいたしたいと思います。

今、御指摘があったように、各種団体とかにも広げて周知を行ったらどうかというところでございますけれども、その辺が可能であるかどうかは今後研究してまいりたいと思います。その中で、今回1件にとどまった理由が、周知の方法もそうなんですけれども、やはり行政計画というところでのとっつきにくさがあるのではなかろうかということも感じております。その中で計画だけを出すのではなくて、分かりやすさを示すような何か資料とかができればいいのかなと思っておりますので、その辺も含めて今後研究をしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） ありがとうございます。情報というのは発信する側と受け手がいて初めて成り立つものだと思います。なので、受け手のレベルに合わせて情報を発信することが今後は必要になるのかなというふうに思っています。

また、パブコメに意見を出して意見が反映されたりすると、市役所の意見・考え方を聞けたり、提出者である市民のエンゲージメントというのは高まります。ぜひ、めんどくさいと思わず積極的なパブコメの意見募集をよろしく願いいたします。

続いて、3問目の質問です。

壱岐を代表する観光地、猿岩の近くに戦争遺構として黒崎砲台跡が残されており、観光資源の1つとして紹介されています。一方で、この黒崎砲台については方針の由来や回数について資料によって異なります。このことについては、壱岐の新聞社である壱岐新報で何度か報じられています。例えば、昨年8月8日読者が投稿する目安箱のコーナーで黒崎砲台の案内版が間違っているという投稿がありました。最近では、今年2月6日の目安箱のコーナーで、作り直された黒崎砲台の案内版、責任逃れの表記に疑問と市民からも投稿されています。

この看板を作り直す過程、情報発信、その内容の正確性や根拠の整理は重要であると考え、以下3点についてお伺いします。

1つ目、看板を作り直す経緯について。

2つ目、看板に記載する内容の検討について。

3つ目、黒崎砲台の史実を市としてどのように把握しているのかお伺いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 塚本地域振興部長。

〔地域振興部部長（塚本 和広君） 登壇〕

○地域振興部部長（塚本 和広君） 1番、菊池議員の御質問にお答えいたします。

1番目の御質問ですが、議員御指摘の黒崎砲台をはじめ、旧町時代から島内各地に観光地案内の看板等を設置しており、看板の状態や破損状況等について職員が日常的に点検を行っております。点検により把握したもの並びに市民皆様からの連絡や御指摘等も含め、必要が生じた場合は修繕や表記の修正等を行っております。

今回、黒崎砲台については、看板表記の内容について市民の方から、戦艦土佐との表記が戦艦赤城ではないかとの御指摘があり、担当課において黒崎砲台の記載がある文献・書籍等を確認し、文化財班の学芸員とも協議を重ね内容を精査した結果、看板内容の修正が必要であると判断いたしました。表記の修正等について部分的緊急的な対応も考えたところですが、経年劣化により文字が読みづらい部分等もありましたので、今回、当該看板を改修することとしたところでございます。

2番目の、看板に記載する内容の検討についての御質問ですが、御指摘のように黒崎砲台については諸説がございます。以前の看板の作成当時では、砲身は戦艦土佐のものを使用したというのが通説であり、戦艦土佐説を採用したものと考えておりますが、今回、改めて史実を確認するため、関係する資料を収集し、資料をもとに調査を行い、文化財班の学芸員とも協議を重ね内容

を精査いたしました。結果として、現在の通説では、戦艦赤城の砲身を使用した説が有力であるとの結論に至り、今回、戦艦赤城に記載を変更いたしました。

なお、今回の記載内容の変更に当たり、株式会社光人社が、2011年12月19日に発行した日本陸軍の火砲要塞砲、著者、佐山二郎、発行者、高城直一に記載された内容を参考にしたことから、引用元である参考文献の情報についても看板に記載したところでございます。

3番目の黒崎砲台の史実・事実関係を市としてどう把握しているのかという御質問ですが、例えば今回のように市民皆様等から連絡・指摘があった場合や、ほかの関係機関等から指摘があった場合など、調査や精査の必要が生じた場合は学芸員等にも協議の上、必要があれば表記を修正するなどの対応を行っているところでございます。

新しい説が判明されるなど、歴史上の通説が変わることはありますので、可能な限り情報収集に努め、必要が生じた場合は表記の修正等を適宜行ってまいります。

以上でございます。

〔地域振興部部長（塚本 和広君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） ありがとうございます。看板を作り直す過程で、文化財団の学芸員の方と協議して、文献も調べて作り直されたということは分かりました。ただ、現場で案内するガイドであったり、指摘した市民の声というのが届いているのかどうかというのがちょっと不十分なのかなという気がします。

私も気になって黒崎砲台について調べました。調べても分からないので防衛省に問合せをしました。そうしたら、幾つか資料を教えてくださいました。その1つがこちらです。

これは、国公立公文書館アジア歴史資料センターで閲覧ができる資料で、レファレンスコードC01003955000の12桁で検索すると、壱岐要塞黒崎砲台砲塔据付け完了後における射撃試験実施に関する件という資料が出てきます。

ただ、これを見る限りでも正直よく分かりません。そして、先ほど答弁にもあったように、歴史というのは変わることがあります。新しい資料や研究によって解釈が変わることもあります。例えば鎌倉幕府。かつて私が習ったときは、「いいくにつくろう鎌倉幕府1192年」で覚えましたが、現在の歴史の教科書は、「いいはこつくろう鎌倉幕府1185年」と記載されています。何が言いたいかというと、今一番困っているのは誰かということ、黒崎砲台を案内するガイドさんなのだと思います。一般の観光客であれば、ある程度の説明で納得してくれることも、事前に調べてきた詳しい方には案内の現場で困るのだと思います。これも私からの提案にはなるのですが、この黒崎砲台の看板の件も含めて一度、壱岐のガイドさんと意見交換というものを行ってみたいはいかがでしょうか。

黒崎砲台の看板もそうですが、昨日話にありました公衆トイレの数の問題、和式トイレの問題、観光動線の老朽化している箇所など、現場目線でいろいろ課題を共有できる機会になると思います。この点、いかがでしょうか。

○議長（土谷 勇二君） 塚本地域振興部長。

○地域振興部部長（塚本 和広君） 菊池議員の再度の御質問にお答えをいたしたいと思います。

ガイドさん方と意見交換するという事など、非常にためになると思っておりますので、今後検討してまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） ありがとうございます。壱岐島には様々なところで活躍するガイドさんがおられます。ぜひ現場の声を聞いて、観光政策に反映させていただけることを願っています。

続いて、4つ目の質問です。

4つ目の質問は指定管理者制度についてです。

この制度は民間のノウハウを活用しながら、公共施設の効率的な運営を図る重要な制度であると認識しています。一方で、制度の運用に当たっては公平性や透明性、ROIの観点、リターン・オン・インベストメント、投資対効果、つまり投入した税金に対してどの程度の成果や効果が得られるかということが重要になってきます。

昨年12月議会の後に、この指定管理者制度について自分なりに調べて発信してコメントをいただきました。まず率直に、市民はこの指定管理者制度についてよく把握しておりませんでした。いつもイルカパークのことが取り上げられます。イルカという動物を取り扱う以上難しい問題だと思いますが、指定管理料の金額でいえば、例えば壱岐国博物館、年間5,183万円、原の辻一支国王都復元公園、年間3,080万円、壱岐出合いの村、年間2,500万円。一方で指定管理は受けているけど指定管理料をもらっていない施設もあります。壱岐市自動車教習所ゼロ円、国民宿舎壱岐島荘ゼロ円、壱岐市ケーブルテレビゼロ円などです。

そして、指定管理者制度は公平性の観点から公募が原則ですが、壱岐市の場合は、17施設中12個が非公募です。今まで議会が承認してきましたが、私はすごく違和感を思います。その中で、12月議会で特に不公平だと感じる、壱岐出合いの村と壱岐市猿岩物産館の非公募の理由について、改めて教えてください。また、昨年12月議会の総務産業常任委員会において、公平・公正の在り方についても検討することと審査報告書を提出しております。その後、決定した5つの指定管理者について、どのような指導を行ったのでしょうか。お伺いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 松嶋産業推進部長。

[産業推進部部長（松嶋 要次君） 登壇]

○産業推進部部長（松嶋 要次君） 1 番、菊池議員の御質問の、指定管理者制度につきましてお答えをさせていただきます。

まず、壱岐出合いの村と壱岐市猿岩物産館の非公募の理由でございますが、両施設の指定管理者であります壱岐出合いの村振興会は平成9年4月に、両施設の維持管理及び運営に関する事業を行うために設立された組織であること。そして壱岐出合いの村は、自然体験など小学生を主に対象とした体験施設であり、投資効果等を単純に数値で判断する施設ではないと判断しておりますことをまずもって御承知おきいただきたいというふうに思っております。

その上で、非公募の理由につきましては、ただいま申し上げましたとおり、本振興会は両施設を運営するために設立された組織であること。また、体験型観光施設であることから事故の可能性を考慮する必要があり、開館以降28年にわたり無事故で対応してきた本振興会は信頼性が高いこと、シーカヤックや釣りイカダ、シュノーケリング等の体験の場となる海域を熟知している振興会以外にふさわしいものがないことから非公募としたところでございます。

猿岩物産館につきましては、人件費を抑えるため隣接する壱岐出合いの村を運営する壱岐出合いの村振興会が管理することが効率も良く、合理的な運営につながることから非公募としたところでございます。

事業内容につきましては担当課において事前に協議を行い、9月のシルバーウィーク期間中や全国的に流行しておりますソロキャンプ等、年間を通じた利用者の増加に努めること。また、人件費の削減等により支出を再度見直し、指定管理料を2,500万円まで削減した内容で申請をされております。その後、11月に壱岐市公の施設の指定管理者選定要項に基づき、選定委員会において御審議いただき、指定管理者候補者に選定されたところでございます。

これらのことから、市としましては安易に非公募として選定したものではないことを御理解いただきたいと存じます。また、総務産業常任委員会における審査報告書で御指摘のとおり、建物老朽化対策やサービス内容の見直しなども必要であると考えておりますので、次期指定の3年後を待つことなく民間企業等での運営が可能か等あらゆる選択肢を検討してまいりたいと考えております。

次に、12月に決定した5つの施設の指定管理者にどのような指導を行ったかとの御質問でございますが、壱岐出合いの村振興会につきましては、12月会議の折に御指摘いただきましたように情報発信が不十分でありましたので、インスタグラムとSNSの活用を強化することを指導し、また、市の各種イベントにおきましても、宿泊施設として積極的に活用いただくよう各部署へ協力をお願いをいたしております。そのほかの3施設におきましても、委員会意見を踏まえ、検討を進めているところでございます。

以上でございます。

〔産業推進部部長（松嶋 要次君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） ありがとうございます。これらの施設の存在を否定するつもりはないです。壱岐の観光振興に資する施設だと考えています。

1つだけ確認をさせてください。猿岩物産館はなぜ指定管理に選定されている、税金を投入する理由はもう一度お願いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 松嶋産業推進部長。

○産業推進部部長（松嶋 要次君） 猿岩物産館がなぜ指定管理されているのかというところについては、出合いの村と同じ時期に整備をされまして、その当時から指定管理をされているところで、すみません。詳しいちょっと資料を持ち合わせておりませんので、あともって御回答させていただきたいと思っております。

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） 二十何年前に設立して、当時はそれが妥当だったんだと思います。これは総務産業常任委員会の報告書にもあるんですけども、時代が変わってきているので、本当に17施設見直す必要があるのではないかなというふうに思っています。猿岩物産館だけ年間280万円の人件費が税金として出ています。答弁にはなかったのですが、例えば利益度外視で地域に根差した物産販売店として活動する拠点なのであれば、郷ノ浦にもお土産屋さんがあります。勝本にもあります。港にもあります。それらの施設が利益度外視で壱岐の農産品を販売したら、同じように指定管理に選ばれるか。そうはならないですよね。なので、やっぱりおかしいところに来ていると思います。なので、3年という期限があるかと思うのですが、それは毎年毎年確認、チェックをお願いできればと思います。

先ほどSNSでの発信という指導をしたということがありました。SNSの発信についてなのですが、壱岐出合いの村のフェイスブックの一番新しい投稿が1年前の2025年3月27日、その前が2024年7月、その前が2020年4月です。5年間で3回です。インスタグラムに関しては、新しいものから1月27日、1月5日、12月27日、12月17日、12月16日、12月3日と、1か月に二、三回上げているかなと思います。ただし、2月と3月は1回も上げていません。猿岩物産館についてはアカウントを見つけることもできませんでした。令和の時代において情報を発信するのは最低限のマナーだと思います。元武雄市長の樋渡さんの言葉を借りれば、「見つけてもらわなければやっていないことと一緒に」です。まして税金が入っているならなおさらです。SNSでの発信は得意・不得意あると思いますが、スマホ1台あれば誰でもできることです。壱岐市の全ての指定管理者に月1回のSNSでの情報発信を指導することはできな

いでしょうか。SNSでの発信をすれば売上げが簡単に上がるとは思いませんが、最低限やる必要があると考えます。例えば農協の四季菜館アグリプラザでは、担当者が毎日のようにSNS等で発信しています。情報を発信するようになって売上げが前年比120%ぐらいになっているそうです。島内の購買も増えましたが、島外への発送も増えているということでした。また、芦辺の人になるのですが、定期的に清石浜の写真を上げている方がいます。きれいな写真をただInstagramに上げているだけなんですけど、フォロワーが1,600人超えています。厳しい言い方をしますが、SNS発信ができないような施設は指定管理者制度としてふさわしくないと考えます。全ての指定管理者施設にSNSでの発信を指導すること、そして発信ができない施設は指定管理者としてふさわしくないと考えることについていかがでしょうか。

○議長（土谷 勇二君） 松嶋産業推進部長。

○産業推進部部長（松嶋 要次君） 追加の質問にお答えをさせていただきます。

議員が言われますように、今の時代、SNSでの発信というのはやはり必要最小限、必要なのかなというふうに思っております。今後、私たちの管轄も含め、そういった内容が検討できないか研究してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） ありがとうございます。本当に、ただ日常の生活を写真に上げるだけでいいと思います。今日、雨降っています。風景を撮る。今日晴れています。こんな人が来ました。それだけでいいと思います。壱岐の日常というのは、壱岐に住んでいない人からすると非日常です。なので、本当に写真をただ上げるだけでいいです。それをやってもらえたらというふうに思っています。今後も指定管理者制度の指定の議案があると思います。その都度、深掘りしていこうと思うのでよろしく願いいたします。

最後に、5つ目です。

市政運営について、市長にお伺いいたします。

篠原市長におかれては令和6年の就任以来、現在1期目の折り返しに差しかがろうとしており、約2年が経過しようとしています。市長や本市の取組は市のホームページや、それこそSNSで拝見しております。一方で、市民の声の中には、取組が十分伝わっていない部分や、まだ道半ばであると感じられる分野もあるのではないかと感じています。そこでお伺いします。

就任からこれまでの約2年を振り返り、市長御自身としてどのような成果があったと認識されているか。また、現時点でまだ十分に取り組み切れていない、あるいは今後さらに力を入れる必要があると考えている課題について、どのように認識されているか、市長の率直な御所見をお聞かせください。先ほどの山内議員との質問と重複するので割愛していただいても大丈夫です。

お願いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 篠原市長。

〔市長（篠原 一生君） 登壇〕

○市長（篠原 一生君） 菊池議員の御質問にお答えさせていただきます。

菊池議員におかれましては、日頃から本市の情報発信に関心を寄せられ、市のホームページ、または私のSNSも御覧いただいておりますことに感謝申し上げます。

御質問の就任からの成果と認識についてお答えさせていただきます。

私はかつて秘書業務にも携わった経験もございますが、市長に就任して以来、改めてその職責の重さを身が引き締まる思いで受け止めております。SNSにも一部掲載しておりますが、連日の会議に加え、地域の行事や各団体の会合などへも積極的に自ら足を運び、市民皆様の生の声を直接伺う機会を大切にしております。また、その隙間を縫うように各担当課からも多岐にわたる報告、連絡、相談が絶え間なく寄せられておりますが、これほど多くの相談が寄せられているということは、逆を返せばそれだけ市役所が動いている証であり、大変うれしく感じております。

このように、直接的・間接的に聞く市民皆様の声を速やかに政策決定に反映させ、様々な分野におきまして事業のアップデートを行っているところでございます。具体的な成果につきましては、先ほど山内議員の一般質問でも触れさせていただきましたが、市民の皆様とともに作った100の政策の進捗状況が81%ということで着実に壱岐市は変わってきている、前に進み始めていると確信をしております。一方で、こうした取組の多くは、いまだ種を蒔き、芽が出始めた段階でございます。市民の皆様が日々の暮らしの中でその変化を当たり前のように実感いただけるまでには、まだ一定の時間が必要であると受け止めております。特に、壱岐新時代プロジェクトにつきましては、全く新しく、かつ本市の未来を左右するような壮大な挑戦です。このような新規の大規模プロジェクトは、市役所の力だけでは成し遂げられるものではございません。だからこそ、この壮大な挑戦を手伝ってくれる、また、その力を持つ多くの企業、大学との連携体制をこれまで築いてまいりました。3月30日には壱岐新時代プロジェクトのこれまでの進捗状況、そしてこれからの方針を市民皆様に発表する場を設けます。プロジェクトの実現には、市民皆様の御理解と主体的な関わりが必要不可欠です。公報につきましても、これまでの伝える公報から届く公報へと、さらに手法の研究改善に努めてまいります。

先ほど菊池議員がおっしゃったように、私も以前、公報の担当もしておりまして、届かなければ公報誌ではないというのは、前田上市長もおっしゃっておりました。そういった中で、読んでもらえる公報誌に気をつけていたところでございます。

一方で、多くの首長と話す中で、これだけ市は事業、全部数えたわけではないですけど、1,000事業以上ある中で何もしていないわけではないよねと。どうすれば市民の皆さんに伝わ

るのかと、発信はしていると。そういうのも1つ、皆さん共通の課題でもございます。

そこで、1つ参考になったのが、東かがわ市というところの市長と話す中で、今ニュースリリース等報道機関に壱岐市はいろんな事業を投げ込んでおりますが、市民ジャーナリストという制度を東かがわ市は取り組んでいると。条件がいろいろあるんですけども、先ほどのようにフォロワーが10万人以上とか、そういった方を市のほうで選んで、その方には報道機関と同様にニュースリリースをするなどの取組もあるようです。今、研究をさせておりますが、様々な取組、皆さん試行錯誤してやっておりますので、アンテナを張って壱岐市に合う、まさに時代に合った情報発信に努めてまいります。

以上でございます。

〔市長（篠原 一生君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） ありがとうございます。今までの取組、そしてこれからの取組について教えていただきました。

やっぱり市役所はいろんなことをやっていると思います。それこそいろんな意見があると思うんですが、割と窓口の方と普通に行政サービスを受けるんですが、結構自分としては満足度が高いです。なので、やっていないとは全く思っていないですし、あとはそれを届けることと、若干ギャップがある事業に関してはそのギャップを埋める作業というのが今後必要なのかなというふうに思います。

篠原市長になられてSDGs未来課と一緒に推進課に改変されたと思います。これは市長の覚悟だと思っています。市民対話会もいいんですが、もっと市民の声を拾う機会をつくっていったらいいのかなというふうに思っています。例えば、昨日、それこそまた公衆トイレの話になるんですけど、公衆トイレ95か所で不足していないという説明があったかと思います。壱岐には、貸切りバスの事業者が2社あります。その貸切りバスの運行スケジュールを作成する方と話をしてみてください。そしたら、どこにトイレが必要なのか教えてください。どこのトイレを改修したほうがいいのかピンポイントで教えてください。いろんな会議があると思います。名簿とかももらって見ます。そこには大体、会長とか、理事とか、社長という肩書きの方が出席されています。そうではなくて、もっと現場の声を拾うような機会をつくって、そういう方々の意見というのを反映させる機会をもっとつくっていったらいいのかなというふうに思っています。そういう機会を検討いただくことはできないでしょうか。最後に市長にお伺いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 篠原市長。

○市長（篠原 一生君） 菊池議員の御質問にお答えさせていただきます。

まさに生の声を聞くというのが非常に大事だというふうに思っております。私はもちろんです

けども、職員が直接聞くというのは大事です。ただ、毎回いろんな方の意見を聞くというのは難しいので、その代表者の方の会があると、これはもちろん必要なことであります。

ただ、一方で、今人口が減ってるんですけども、業務が増えてる、それは国のいろんな調査事業であったり、県の事業だったりするんですけども、ちょっと昔話になったらあれですけども、私がまだ旧町の役場の職員だった頃は、本当に半日ぐらいは現場の人と話してるというのが何となくイメージとしてありました。ただ、今本当に忙しくて、毎日机にかじりついてる、パソコンに向かってる、この働き方をやっぱり変えないと、なかなか市民の皆さんと職員がじっくりと生の声を話す機会がないのかなと思っておりますので、DX等も進めながら、そういった職員と市民の方が話せる場、話せる時間を市役所としてつくっていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 菊池議員。

○議員（1番 菊池 弘太君） ありがとうございます。業務の効率化は本当に非常に大事だと思います。自分も公務員をやっていたので分かります。本当に無駄な業務はきっとあるんだと思います。なので、新しいこともやりつつ、これ無駄だよねという業務は減らしたり、あとは効率化する、それこそ令和8年度予算案の中にDXの導入というのがあったと思うんですけど、本当に業務効率をしていかないと共倒れになってしまうかと思うので、そういう便利なツールがたくさん世の中に出てきていると思うので、そういうのもうまく活用しながら、市の職員もハッピーだし、市民もハッピーだし、壱岐に来る方もみんな幸せということが理想だと思うので、そういう壱岐になれるように、今後も自分も努力、情報発信、いろいろしていこうと思います。

これで、一般質問を終わります。

〔菊池 弘太議員 一般質問席 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 以上をもって、菊池弘太議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩をいたします。再開を午後2時といたします。

午後1時49分休憩

-----  
午後2時00分再開

○議長（土谷 勇二君） 再開いたします。

一般質問を続けます。

次に、6番、山口欽秀議員の登壇をお願いします。

〔山口 欽秀議員 一般質問席 登壇〕

○議員（6番 山口 欽秀君） 6番、山口欽秀が3月議会最後の一般質問を行います。

高齢者、障害者、子どもたちなど弱い者が、行政の手が届いて、安心して日々を暮らせる、そ

ういう社会をつくるために、自治体は常に福祉増進のために様々な施策をする、そういう使命、責任があるというふうに私は思っております。そういう意味で、壱岐市がその役割をしっかりと果たすように、今回、高齢者の健康づくり、それから交通支援について質問をしたいと思っております。

まず、第1番目の質問であります、高齢者の健康づくりについて伺います。

介護予防や健康寿命の延伸のための取組は、必要不可欠であるとしています。ところが、来年のふれあいサロンの事業の計画が変更されました。講師派遣が今まで12回であったのが、6回に減らされてしまいました。サロンの充実という点では逆行しているのではというふうに思いますが、どのような事情からこのような事実になったのでしょうか。そして、今後、このふれあいサロンの充実策というのをどのように考えていらっしゃるのかお伺いいたします。

○議長（土谷 勇二君） 山口欽秀議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。村田保健環境部長。

〔保健環境部部長（村田 靖君） 登壇〕

○保健環境部部長（村田 靖君） 6番、山口議員の高齢者の健康づくりについて、1項目めの御質問にお答えします。

まず、ふれあいサロンとは何かという点であります、サロンは本来、市や社会福祉協議会の事業として実施されるものというよりも、地域の皆様が主体となり、気軽に集い、支え合う通いの場であります。

壱岐市の介護予防事業といたしましては、壱岐市地域包括支援センターによる介護予防教室の実施と壱岐市社会福祉協議会へはつらつ元気塾として業務委託を行い、地域のサロンや老人クラブ等を対象に専門職による介護予防教室を実施しております。

一方、ふれあいサロン事業につきましては、壱岐市社会福祉協議会が実施主体となり、日常的に家に閉じこもりがちな高齢者の皆様が気軽に集い、楽しく過ごせる居場所を提供することを目的としております。

サロンは、行政や専門職が主導する事業というよりも、地域の皆様が主体となり、お茶を飲みながらの茶話会や温泉やお花見などへの外出、季節行事の実施など、無理のない形で交流を深める通いの場であります。こうした日常的なつながりそのものが閉じこもり防止や介護予防につながるものと考えております。参加者が楽しめる内容を実施者とともに話し合いながら進めることで、地域の人々との交流を深め、社会参加を促進することが期待されております。

今回の御質問は、こうしたサロン活動に対し、介護予防教室として、壱岐市地域包括支援センターが介入する分、並びに壱岐市社会福祉協議会のはつらつ元気塾出前講座に関する見直しについての御指摘であると認識しております。

市や壱岐市社会福祉協議会、地域包括支援センターの職員が関わる介護予防教室は、あくまで

その活動を支える一つの手段であり、主役は地域の皆様であります。

令和7年2月末現在、包括支援センターや社協職員が介入するサロンは、10回以上が22サロンあり、多いところでは14回開催されています。今回の見直しは、特定のサロンに市や社協の関与が集中するのではなく、全てのサロンに一定の支援が行き届くよう、平準化を図るものであります。

また、取組が少ない地域、まだサロンが立ち上がってない地域への働きかけも視野に入れた体制整備であります。講師派遣を前提としなければ活動できないという形ではなく、地域が自主的に継続できる仕組みを整えることが結果として持続可能な介護予防につながるものと考えております。

高齢者が住みなれた地域で安心して暮らし続けるための身近な居場所づくりとして、サロン活動を引き続き支援してまいります。

次に、2項目めの御質問にお答えいたします。

サロンは、壱岐市社会福祉協議会の事業で、日頃、家に閉じこもりがちな高齢者に対して楽しく過ごせる場所を提供し、地域の人々との会話、レクリエーションなどを通じて仲間づくりや社会参加を促進するもので、参加者が楽しめるプログラムを実施者と参加者で話し合っ実施いたします。

令和8年2月5日に開催されましたふれあいサロン運営説明会において、参加者に対して新たな方針について説明を行い、理解を得ることができたと考えております。参加者からの様々な御意見に対しましては、相談コーナーを設けることで直接的な対応を行いました。また、地域のニーズに応じた支援を継続していく方針です。

今後は、次の3点を基本に、サロンの量と質の両面の充実を図ってまいります。1点目が地域主体の活動を尊重すること、2点目が必要に応じて専門職が支援すること、3点目が多様なメニューや出前講座を活用できる環境を整えることとなります。地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携し、高齢者が住みなれた地域で安心して暮らし続けるための身近な居場所づくりとして、サロン活動を引き続き支援してまいります。

以上でございます。

〔保健環境部部長（村田 靖君）降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 今の説明であります。もともとこれが通い場であって、地域主体の行事だったんだと、だからそこを元へ戻すんだというような言い方がありますが、市はこのようなサロンを重要な市民の集う場として位置づけて、計画の中にも90のサロンをつくるよと、現在63のサロンであるわけですが、そういうことも言ってありますし、様々な介護予防の重要

性を啓発する場として進めるんだと、そのためのそういう講師の派遣等を進めるんだというふう  
に計画に書いてあると思うんです。それを急遽、通い場だから減らすんだ、講師の派遣を半分  
にするんだというのは理由になっていないと思うんです。なぜ半分にせざるを得ないのか、それを  
明確に答えてください。

○議長（土谷 勇二君） 村田保健環境部長。

○保健環境部部長（村田 靖君） 山口議員の御質問にお答えをいたします。

介護予防の効果につきましては、専門職の単発的な介入よりも、継続的な通いの場での高齢者  
の方の参加や社会的つながりの維持が重要であると考えております。

必要な専門的支援につきましては、今後も確保しつつ、地域の自走力を高めることで、介護予  
防につなげてまいりたいと考えております。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 当然、継続的な支援というのは必要であります、このように  
1 2回をやっていたのを半分にする、なぜか、その背景にあるものをしっかり市民にもしないと、  
一応説明しました、納得されましたというふうには、私はなりません。いろんなサロンをやられ  
ている方と聞いたら、やっぱり困ったと、大変だと、どうしようかと。市がそういうから、茶話  
会にしようかという形で計画はされますが、根本的に新しいサロンを始めるにしても、やはり  
講師の派遣等が必要であると。そして充実をして、私も地域で老人会でサロンをやっていますが、  
いろんな方が毎月講師としてお世話になります。健康づくりとか、体操とか、ゲームとか、いろ  
んな話をされます、1時間以上、楽しい時間を過ごす、高齢者が楽しみにしているわけです。新  
しい知識で、こういう体操をすると体がいいんだとか、こういう食事をすると高齢化の中で十分  
長寿につながるんだと、そういう学習の場ではあるわけです。ですから、やっぱり増やして、き  
ちんと啓発啓蒙という点は欠かせないと思うんです。

この点で、包括の方にも伺いました。それから社協の方にも直接聞いて伺いました。社協の方  
が言われるには、今63のサロンをやる、これから増やそう、土日もあると、土日にも対応する  
と、職員の働きの問題で大変だと。ある方は、社協の担当者が夜遅くまでサロンの手はずをする  
ために連絡を取り合って、夜遅くまでやると、もう大変だというふうに見ているという方か  
ら話を聞いたんです。そういう意味でいうと、社協のほうの今4人の方がいらっしゃいますが、  
やっぱり4人では手が回らるので増やしてほしいと、人員を。そういうふうに社協の方は言われ  
るんですが、そういう手当をすれば減らさなくても、現状維持で回す、それ以上に63から  
90へサロンを増やすための取組につながるんじゃないかなと。そのあたりの人員不足について  
はどういうふうに把握されていますか。

○議長（土谷 勇二君） 村田保健環境部長。

○保健環境部部長（村田 靖君） お答えいたします。

社協のほうの人員不足につきましては、別の法人になりますので、私のほうからコメントは避けたいと思いますが、確かに人員、人材とか財政的な面については、限られた中で継続的に取り組んでいくものだと考えております。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） そういうふうには人材不足ですね。市の包括の方も土日に来ていただいて、地域で血压検査とか、沼津のまちづくり協議会の企画にも参加してもらって、大いに助かっておるわけですけども、やっぱり人員不足を解消しなければ、この高齢化社会の中で十分な手当ができないんじゃないかと。今回の予算編成を見ても、社協の事務局費については、令和7年度と8年度と同額なんです。これだけ物価高が云々という、言われて値上げするところがあるのに、社協の事務局費は上がらない。一方で、こういうサロンの開催についての、やっぱり後退と言われざるを得ないような実態が広がっているという点。社協でいくと、令和3年度は3,718万円あったんです、コロナの影響かもしれないですが。今、2,862万円という予算なんです、やっぱり減らされている。この世の中、高齢化の中で減らされている。きちんと対応すべきだと思います。

そういう意味で、対応策、地域主体と言われますが、社協、それから包括の責任はしっかり守りながら充実する方向で、とりわけサロンの講師、派遣を6回じゃなくて、増やす方向で検討していただきたいと。それからサロンの講師の方も様々あるでしょうけども、講師の充実についても取組を進めていただきたいと思うし、今サロンやってない老人クラブも多いですので、ぜひそのよさを伝えるためにも努力していただいて、そのためにもやっぱり人を増やすという取組が必要だと思いますが、どうでしょうか。

○議長（土谷 勇二君） 村田保健環境部部長。

○保健環境部部長（村田 靖君） お答えします。

サロンは地域主体の活動でありますので、市としても包括支援センターや社協と連携をして、講師派遣や相談対応などの支援を行ってまいりたいと考えております。ただ、講師派遣につきましては、初年6回ということで、残りについてはまちづくり、市の出前講座などがございまして、そちらのほうの活用もお願いしたいと考えております。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 高齢化社会の中で、壱岐市は第9期の介護保険事業の計画をつくっています。その中にも、高齢者に向けて健康寿命延伸のための取組ということ言ってるわけですから、サロンの充実のために努力を引き続きお願いいたします。

では、その2点目に、次へ移りたいと思います。

同じように、高齢者の問題であります、壱岐市の養護老人ホームに関して質問いたします。

高齢になると生活不安が高まって、とりわけ1人になると生活が大変ということで、養護老人ホームの必要性を感じられる方が増えるわけであります。

その中で、壱岐市現在の養護老人ホームの定員は110名なんですが、入所者は現在87名というふうに聞いているわけです。23名の空きがあるわけです。一方で、110を超す待機者があるという点も考えたときに、なぜこの23も空いているんだと。そして待機者もいるわけですから、今後この入所者を増やす手だて、増やせないというんじゃなくて、増やす手だて、どう考えていらっしゃるか、改善策をお伺いします。よろしくお願ひします。

○議長（土谷 勇二君） 村田保健環境部長。

〔保健環境部部長（村田 靖君） 登壇〕

○保健環境部部長（村田 靖君） 次に、養護老人ホームの改善策について、1項目め、2項目めの質問について、併せてお答えいたします。

まず、入所者数が定員に達していない理由であります、新型コロナウイルス感染症発生以前は、ほぼ満床に近い状況を維持しながら運営をしておりました。

しかしながら、感染症流行以降、施設内における感染拡大防止の観点から、12室を感染症対応のための確保をしてきたことが、入所者数が伸びていない主な要因の一つであります。

今後につきましては、先般開催されました壱岐市高齢者福祉計画、介護保険事業計画作成委員会における委員の皆様からの御助言も踏まえ、感染症対応室の運用を段階的に見直し、受入れ可能数の回復を図ってまいります。

また、2点目の入所者数を増やすためには、次に職員の勤務シフトの調整や適正配置による業務の効率化や、入所申請後の意向確認の定期実施、入所までの手続期間の短縮を行うことで、必要な方を速やかに入所へつなげる仕組みを整えてまいります。

また、入所される方も入所前面接にお伺いした後、御自宅の整理など、入所まで数か月を要する場合があります。速やかな入所が可能となるように、担当者による入所待機者の事前状況把握に努めてまいります。

長期の待機期間解消の対応として、複数の施設を申し込んでおられる方、入所の順番が来たので入所前面接を行ったところ、辞退されるケースも多いため、本人、御家族へ定期的に意思確認の調査を実施し、面接から入所に至るまで長期間要することなく、円滑な入所を行い、入所者数の回復に努めてまいります。

以上でございます。

〔保健環境部部長（村田 靖君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 高齢者がとりわけ独り暮らしになったり、年金生活とか病気がちになったりすると、どうしても老人ホームの必要性が高まる方があるんですが、今言われましたコロナ前は満床だということですが、令和元年は107人ということでありました。その後どんどん減って、令和2年が99、令和5年が89まで減ったんですよ。令和5年、6年89というふうで、89のままだったんです。このあたり、コロナ終息をして、もう少し増やせる状況があったと思うんですが、先ほど言われたなぜ増やそうとすることができなかつたのか、増やせたのに増やせなかつたのか、増やせなかつたのか、そのあたりもう一度お願いできますか。

○議長（土谷 勇二君） 村田保健環境部長。

○保健環境部部長（村田 靖君） お答えをいたします。

老人ホームの入所定員が現在110になります。現在、感染症の対応居室として12人、高齢者虐待等がありまして、緊急の入所部屋として2部屋ございます。それで、現在110から12と2を引いて96で、現在入所が86ですので、10室空いてますけども、この空きについては先ほど申しましたとおり、入所決定から実際の入所までに一定の調整期間を要することが挙げられます。

具体的には、入所前に本人や御家族との面接を実施しておりますが、その結果として辞退をされる場合もありまして、次の待機者や御家族へ連絡を取り、また面接の日程調整を行う必要があります。数か月の期間を要する場合もございます。ですので、今後は定期的に待機者との連絡調整を行いながら、速やかに入所につなげてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 待機者との関係です、速やかな連絡とか対応で入所を促すという点で努力はいいのですが、一方で肝心な入所をスムーズにできるだけの職員の配置というのは十分なのか、その点で、今後10、20ぐらいは空いていると、入れるための、そのあたりの職員の補充によつての入居者を増やすということについては、何の障害もないですか。

○議長（土谷 勇二君） 村田保健環境部長。

○保健環境部部長（村田 靖君） お答えします。

現在、壱岐市老人ホームにつきましては、特定施設入居者生活介護という、国で特定が60人と、一般の入居者の方で50人で、110なんですけども、国の人員配置基準に対しましては基準を満たしております、職員の数に問題はございません。ただ、介護の重い方や認知症の方もいらっしゃる、現場の負担が増えておりますので、今後不足する場合はパート職員の募集を行うなど、現場の介護体制の確保を図ってまいりたいと考えております。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 実際、老人ホームに行って伺いましたら、食事の介護が必要な方がいらっしやるとか、それからお風呂の前に数名の方が入浴の世話を受けるために待っていると、そういうことが見て取れました。そういう意味でいうと、介護の手当の必要な方が一定の数があるなどということを思いましたので、そういう職員の方の補充が十分じゃなければ、新たに入れられないということも思います。

職員の方に聞いて、職安のほうに求人しとるけども、なかなか応えてくれないという、そういう話も聞きましたので、市としては、またここでも介護人材不足での問題ですね。これはもう壱岐だけじゃなくて、この少子化の中で人材不足というか、大きな問題になってきているという事実を、先ほどのサロンの問題もそうですけども、今回の老人ホームの問題も十分、高齢者が安心して入れるためにも、やっぱり人材をしっかりと確保するという点で必要だなというふうに思いましたので、努力していただいて、スムーズな待機者が入れるような努力をお願いしたいというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

では、次に3点目に移りたいと思います。

高齢者の交通安全と移動支援についてお伺いいたします。

高齢者の交通事故のニュース、運転事故です、よく見聞きします。高齢者は、通院や買物に行くことを考えると、なかなか車を手放せないという。とりわけ壱岐の場合、高齢者の気持ち、切実です。車の運転が不安だという日々を送っていらっしやる方も多くあります。そんな中で、高齢者の免許返納支援策は壱岐市としてどう考えていらっしやるかという点が一つ。

そしてもう一つ、高齢者、障害者です。今回、高齢者だけだと思いましたが、やっぱり壱岐では障害者の交通支援というのも求められているということを感じました。そういう面で、高齢者、障害者、こういう方々の日常生活を支える身近なコミュニティ交通の整備についてどのようなお考えなのか、この2点を質問いたします。

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

〔総務部部長（平田 英貴君） 登壇〕

○総務部部長（平田 英貴君） 6番、山口議員の御質問の高齢者の交通安全と移動支援策のまず1点目の高齢者の免許返納者支援策をどのように考えているかについてお答えをいたします。

議員、先ほど言われましたように、近年、高齢者による交通事故が全国的に問題視されている中、高齢者の免許返納者に対する支援策は、本市を含め、離島、過疎地域においては、運転免許返納後の買物、通院などの移動手段のほか、高齢者の社会参加を図る上でも重要であると認識をいたしております。

運転に不安を感じた場合に、自主的に免許返納を検討いただくなど、交通安全意識の向上を図る自助の取組を基本とし、その上で、行政としての支援、いわゆる公助の役割として、交通事業

者への支援や利用促進策などにより、移動手手段の維持、確保を図るとともに、地域住民や民間事業者などで、地域全体で支え合う、共助の考え方も取り入れながら、身近な移動を支え合うコミュニティ交通の仕組みづくりが必要であると考えております。

そうした中で、本市では、高齢者の移動支援として、75歳以上の高齢者の方に対し、市内路線バス乗車カードを交付し、1路線100円で乗車できるサービスを実施しております。

一方、民間では、運転免許返納者への支援として、運転免許返納者が取得できる運転経歴証明書の交付を受けた65歳以上の方に対して、壱岐地区タクシー協会がタクシー料金の1割引きを実施するという取組を平成28年9月から実施されているほか、平成30年4月から壱岐地区交通安全協会が交通安全協会会員で運転免許を自主返納した方には、運転免許経歴証明書交付手数料を全額免除する制度があります。また、地域では、まちづくり協議会が主体となって、買物支援や通院の支援事業が取り組まれております。

今後も、先進事例を参考に、交通政策及び高齢者・福祉担当部署のほか、地域や関係機関と連携し、課題解決に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2点目の日常生活を支える身近なコミュニティ交通の整備についてですが、先ほども申し上げましたが、高齢者の交通安全対策及び移動支援策につきましては、本市の重要な政策課題であると認識をいたしております。

高齢化の進行に伴い、自家用車の運転に不安を抱える方が増加する中、通院や買物など日常生活を支える移動手手段の確保は、安心して住みなれた地域で暮らし続けるための基盤でもあります。

現在、本市におきましては、地域の実情に即した持続可能な公共交通体系の構築を目指し、壱岐市地域公共交通計画の策定を進めているところであります。

本計画においては、高齢者をはじめとする交通弱者の移動手手段の確保を重要な柱の一つとして位置づけ、将来を見据えた交通体系の再構築を図ってまいります。

具体的には、予約制によるデマンド型乗り合い交通の導入の可能性を検討し、利用者の予約に応じて運行することで空車運行を減らし、効率的な運行体制の構築を図ってまいります。

また、既存バス路線再編と運行時間帯の見直し、特に通院時間帯や買物時間帯に合わせたダイヤ編成の検討を進めてまいります。

あわせて、乗り合いタクシー方式の活用を検討し、交通空白地域においては、小型車両による柔軟な運行形態も選択肢の一つであると考えております。

今後の日常生活を支える身近なコミュニティ交通の整備につきましては、既存公共交通との役割分担を踏まえた効率的な運行形態の検討、地域の事情に応じた小規模、柔軟な移動サービスの可能性の検討、地域住民や関係団体と連携した持続可能な運営体制の構築など、計画の中で総合的に検討してまいります。

今後とも、市民皆様の御意見をお聞きしながら、持続可能な移動支援体制の構築に取り組んでまいります。

以上でございます。

〔総務部部長（平田 英貴君） 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） まず、免許の自主返納についての関係ですが、先日、壱岐のリハビリ研究会の主催で、まさにこの自主返納についての話合いがあったんです。その中で、皆さん、いろいろな経験を出されたり、意見を出された中で、やっぱり家族は心配をしているけど、どうしても買物に行かないかん、病院に行かないかんということで、なかなか返納が難しいという声ですよね。家族で話し合うのか、強制的に車を運転できんようにするのかとか、いろいろありましたが、なかなか難しいと、解決策がないということですよ。

その中で、私は、高齢者の安心の中で、返納するために、一定のあるところで、事故を起こしてからやるとか、人にけがさせてからやめさせるんじゃなくて、一定の免許証更新があったりしますので、高齢者が迷ったときに一気に返納できるようなきっかけをとということでいくと、今言われた75歳からバスでとか、タクシーの1割引きだとか、まち協でどうのこうののではない。やっぱり弱いというのは分かってません、ずっと壱岐市、このままで続いてきてるわけです。私も何度か質問しているわけですから、もっと思い切った支援策をすべきだという点で。

私は、お隣の同じ島で対馬市が返納したら支援金を出すと、1万5,000円だったと思えますけど、タクシー券ですよ。高齢者が沼津で聞きましたら、大体2か月に1度くらい壱岐病院に通われるわけです。そうすると、年間6回くらいやられる。沼津からだ3,000円くらいなんです、タクシーで。半分ですけども。そういうことでいくと、やっぱりそのくらいの思い切った支援をしなければならないというふうなので、やっぱり支援策が必要だと。そういうことで事故が減り、高齢者の安心が保たれればというふうに思いますが、そのあたりの支援、検討はどうでしょうか。

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

○総務部部長（平田 英貴君） 山口議員の再質問にお答えをいたします。

これまでも公共交通におきましては、山口議員からは再三御質問いただいて、御意見をいただいております。私もお隣の島で聞きましたら、私もその必要性というのは十分認識をいたしております。

今、お隣の対馬市の政策を御紹介いただきました。支援金を給付して、タクシー券になるものかもしれませんが、ものを支給しているということでございます。確かにそのような支援があれば、当然市民の皆様にとってはそれはいいことだと思いますけれども、市役所といたしまして公平性の観点を少し述べさせていただけたらと思いますけれども、壱岐市内の中心になります日常

的に利用される大型のスーパーでありますとか、中核の医療機関であります壱岐病院につきましては、やはり郷ノ浦の町内に集中をしていると。その助成券をどのような形で使うのか、1回でタクシー代に全部充てていいのか、1回乗車につき500円なのか、1,000円なのかを使うのかとなりますが、もし500円を使えるとした場合に、近隣の郷ノ浦町に近い方は、タクシーが1,000円でしたと、500円助成券を使うので500円を個人で負担すればいいと。では、勝本であるとか、芦辺の箱崎のほうであるという方になりますと、タクシー代が3,000円かかりますと、500円助成券を使いました、じゃあ2,500円を自己負担しますと。そういう居住地で住民の方が、市民の方が居住地でその格差が出るんじゃないかということを私は心配をいたしております。そのために、やはりその導入に当たっては慎重な協議検討は必要ではなかろうかということで、これまでもいろいろとそういう御意見をいただいておりますけれども、今現在まだその政策の実行に移っていないということで御理解いただければというふうに思います。

以上です。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） できない理由をるる考えても駄目です。やっぱり市民が困っているんだから、そんなことを言ったら、対馬でも病院に近い人と遠くの人と当然いるわけです。でも、つくるんです。そんな公平性、公平性、じゃあ今、初山でコミュニティバス、箱崎で走っている、じゃあ、あそこは便利ばかりで、沼津は公平性は保たれてないじゃないですか。そういう点を、やれない事情を考えないで、やるための理由をしっかりと持っていきたいと思えます。これだけで議論すると時間がないので、ぜひそういう返納者に対する支援が必要です。そして、高齢者が安心して車を放しても生活できる体制をぜひ一日も早くつくっていただきたい。それはこういう支援制度とともに今から議論するこのコミュニティバスの、コミュニティ交通の問題です。

今言われた予約制タクシーの検討、バス、それから小規模計画をするという、これ、計画の段階なんですね、今。そういう認識ですか、状況なんですか、壱岐市は。

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

○総務部部長（平田 英貴君） 山口議員のほうにも、公共交通会議の協議の場に傍聴にも来ていただいていると思っておりますけれども、まさに今現在、新たな公共交通の再編計画をつくって、壱岐市にどういう形の交通体系が必要なのかということをもまさにこの計画でつくって、そしてまた8年度にその計画を実行するための利便増進計画をつくって運行を始めるということになっております。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 計画、計画づくりだというふうに言われますが、壱岐は過去に、現在、壱岐市地域公共交通計画をこの3月までつくって、計画です。これの前に3つあるじゃないですか、計画が。平成30年に壱岐市地域公共交通網形成計画というのをつくりました。その翌年に壱岐市地域公共交通再編実施計画をつくりました。そしてその後、一昨年、壱岐市公共交通利用状況等調査業務で報告書が出ました。このように、地域交通について熱心であるといえど熱心ですが、計画についていくと、まず平成31年の地域公共交通再編実施計画を見ると、これはまさに今の初山、箱崎の今のコミュニティバスの実施計画の計画で、まさに今、副市長をやっている中上さんが総務のときにやられて、努力されて実施されたということでいいんですけども、その後、この計画に沿って進めば、石田町とか、それから渡良とか沼津についても一定の計画があるじゃないですか。これは進んでないじゃないですか。なぜ石田に進まなかったのと思いますけども、その後、1定、空きますが、2年前、壱岐市地域公共交通利用状況調査で、ここでも今回行われたような利用状況の調査を全面的にやって、この調査の目的は来年度と書いてあるんです。この中に来年度と書いてあるんですけども、来年度、これは令和7年じゃないですか。令和7年度の運行予定のオンデマンド交通の事業設計策定に資する示唆を得るためにやるんだと、このように書いてあるんです。何でそのように進まないんですか。

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

○総務部部長（平田 英貴君） 山口議員の御質問にお答えをいたします。

今お示しをいただきました令和6年度の調査につきましては、本年策定をいたしております公共交通再編計画、そして利便増進計画等において、その調査の結果を踏まえて計画を今進めているというところでございます。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） この報告書に、最後のところに何て書いてあるかというのと、石田、郷ノ浦町においてシミュレーションをやったと。その結果、オンデマンド交通の導入を開始することを提案すると書いてあるじゃないですか、これ。なぜ提案を受けて、そして細かく交通量調査までしてつくった提案を、またこれで調査して、また計画をつくると。それぞれに500万円ずつ予算を費やしている。こんな計画づくりに計画をどんどん費やすのは無駄じゃないですか。どうなっているかお答え願えますか。

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

○総務部部長（平田 英貴君） 山口議員の御質問にお答えいたします。

先ほども申し上げましたけれども、今現在つくっております公共交通再編計画、そして次年度に行います利便増進計画をつくった上で、まずはモデル地域を、実証実験の地域においてやりまされども、今6年度に調査をしましたことも踏まえて、そのモデル地域、実証地域を選定をし

ようというふうと考えて進めております。

それと、先ほど来言われておりますが、網計画、平成31年に策定をいたしました網計画等につきましては、これは今現在、再編計画をつくっておりますが、国の指導によりまして、5年たったら作り直しなさいということで、全国の自治体で再編計画は今作成を、昨年度からも進められているというふうに私は認識をいたしております。ですので、先ほどから言われるように、計画、計画ということで幾つもつくってということではなくて、私どもも国の指導・方針の下に作成をしておりますので、そのあたりはどうぞ御理解をいただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） こちらのほうでもう既に、どこでオンデマンド交通のシミュレーションをやって、大体どこかで実証実験をやるかということは提案されているということをおもいますが、それは違うんですか。

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

○総務部部長（平田 英貴君） 先ほど来言いますけれども、その結果を踏まえて、モデル、実証実験の地域を選定をしたいということで考えております。ただ、今準備、なぜすぐにかかれないのかと言いますと、今現在つくっております再編計画、そして利便増進計画をつくらないと、車両の購入でありますとか、予約のシステムでありますとか、そういう導入費に補助金がかからないということで、財源が限られた中でありまして、できる限り国・県の支援をいただいて導入ができるように、今急いでその再編計画、そして利便増進計画を策定をしているということでございますので、御理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 3月で完成するだろうこの壱岐市地域公共交通計画ですよ、パブコメもやっているんですが、これにあるように、マスタープランだと具体的な、マスタープランでしょう、具体的なプランなんでしょう、これ。その上にまた新たにプランとして、利便性増進実施計画検討作成をします。今言われてるのは、国がその次の増進実施計画をつくらないと予算をくれんからつくるといふ、そういうことですよ、今言われてるのは。

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

○総務部部長（平田 英貴君） 先ほど平成31年に壱岐市が策定をしております網計画が、それは新しく作り直しなさいよということは国の指導でございます。そして、利便増進計画は、その事業を実行する上で、車両を買うとか、予約システムを導入するという経費の補助制度として、その利便増進計画は必要ですよということで示されておることから、今計画を急いでつくって

るところでございます。

以上です。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 計画をつくった、またその次に計画をつくる、500万円、500万円と1,500万円をこのために費やしていると、そのことなんです。いかにお金の無駄遣いか、そして実施までの時間がこんなに延び延び延び延びきているという、その間に高齢者は困った生活が引き続き続くと、こういう事態じゃないですか。だから、もっと早く交通再編計画に沿ってできなかったのか、そして今ももっと早く計画ができないのか、最初のこのやつでいくと、オンデマンドの地域も確定しているし、やっぱりもっと早くできないのかと、そういうことです。

1つ、最後に聞きますが、壱岐市が今後やろうとしている乗り合いタクシーがどこなんですか。どこか自治体、どういう自治体をまねをするというか、参考にしてやろうというふうに考えている自治体はありますか。

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

○総務部部長（平田 英貴君） どの自治体をモデルにするかということではなくて、私どもが今考えているのはドア・ツー・ドアでできないかと。朝の今の路線バスの利用者の7割は高校生であります。学生が利用する時間帯だけ、朝夕だけ路線バスは走って、それ以外はオンデマンドのそういうバスに、コミュニティバスに変えてドア・ツー・ドアで運行ができないかということ考えておりますので、特段どの市町を参考にしていないということでは考えてはおりません。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 長崎県でも乗り合いで、波佐見町でやってます、それから佐世保、佐々、それから東彼杵町、それから五島、幾らでも参考にする自治体はあるじゃないですか。まず、そこへ行って、どうやっとなるんだ、壱岐からすぐできるようなこと何かないか、そんな国の補助金額どうのこうの言ってる場合じゃなくて、1,500万円だったらどれだけ車買えますか。補助金待ちじゃなくて、実際にやる、そのための一歩、やっぱりやる気が、そういう点で確認したいんですが、よろしいでしょうか。

○議長（土谷 勇二君） 平田総務部長。

○総務部部長（平田 英貴君） やる気をとということでございますが、当然その気持ちがあるので、今現在、山口議員から御指摘を受けて、遅いという御指摘は分かりますけれども、当然、市民皆様のためにどうにかできないかという心持ちを持って取り組んでおりますので、そのことは御理解いただきたいと思いますが、計画に1,500万円もかかっているじゃないかということで御

指摘を受けますけれども、それ以上に、もしその利便増進計画等もつくらなければ、もっと壱岐市の負担は増えますし、そしてなおかつ、この公共交通再編計画をつくることで、国からの、今現在、約400万円ぐらい支援が出ておりますが、それが900万円に上がるとか、いろいろとやはり利点もございますので、総合的に私どもは必要だということを考えてやっておりますので、御理解いただければと思います。

以上でございます。

○議長（土谷 勇二君） 山口議員。

○議員（6番 山口 欽秀君） 総務部長のお言葉をぜひ信じて、今後、この壱岐市公共交通計画が早急に前へ進むように期待して質問を終わります。

以上です。

〔山口 欽秀議員 一般質問席 降壇〕

○議長（土谷 勇二君） 以上をもって、山口欽秀議員の一般質問を終わります。

---

○議長（土谷 勇二君） 以上で、本日の日程は終了しました。

次の議会は、3月12日木曜日午前10時及び13日金曜日午前1時30分から各常任委員会を、3月16日月曜日及び17日火曜日午前10時から予算特別委員会を開催いたします。また、次の本会議は3月19日木曜日午前10時から開きます。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後2時51分散会

---